

# 明治学院広報

## 2024年度 事業報告書



白金キャンパス パレットゾーン白金

学校法人 明治学院

# 2024年度を振り返って

学校法人 明治学院  
理事長 山崎 雅男

2024年度は、各学校とも募集定員を満たす新生を得て、「建学の精神」に立ち、明治学院に託された教育事業を計画通り行うことができました。特に大学においては、学院で初めての理系学部として「情報数理学部」を無事発足させることもできまして、大変感謝でありました。

高等教育を巡る環境は、急速な少子・高齢化の進展など大変厳しいものがありますが、そうした中で、2024年度も教職員が協力して諸課題に真摯に取り組み、教育水準の維持・向上を一層推進できたと考えております。以下において、特筆すべき事柄につきまして述べさせていただきます。

第一点は、明治学院に流れる教育理念を確認・発展させるため、「明治学院教育ビジョン」の見直しと新体制の構築が行われました。具体的には「明治学院キリスト教主義教育推進委員会」が発足し、その下部組織として「部会」が設置され活動を開始しました。また学院の「年間主題聖句」を掲げ、それぞれの学校においてキリスト教の礼拝を毎日守ってきました。

第二点は、大学では今後の情報化社会を担える人材を育成するため、理系の新学部「情報数理学部」を2024年4月に設置するとともに、既存学部との連携を促進するため「情報科学融合領域センター」を2024年7月に設置し、明治学院大学の理念のもと、次世代の技術を用いた人間中心の未来社会の実現に取り組みました。また大学の横浜キャンパス新校舎の建設は、2025年6月の竣工を目指して計画通り進んでいます。

第三点は、2023年度に大学の全学生を対象として開講した「AI・データサイエンス教育プログラム」は、2024年度には中級レベルの「レベル2」も開講し、春学期・秋学期の総計で8,000名を超える履修がありました。

第四点は、私立学校法改正（2025年4月1日施行）に対応するため、学校法人のガバナンス強化をはかるという法改正の趣旨を踏まえて法人役員・評議員の構成の見直しを図る等寄附行為を変更し文部科学省の認可を受けるとともに、関連諸規程の制定や内部統制システムの整備を行いました。この中で我が国のクリスチャン人口の現状に鑑み、理事・評議員のクリスチャン比率を半数以上としました。

第五点は、私立学校の環境の厳しい中で2024年度に行われた大学入学試験では志願者からの評価が得られ、志願者数は前年度を大きく上回り、入学定員を充足することができました。また明治学院高校ならびに明治学院中学・東村山高校においても前年度とほぼ同数の志願者を得ることができました。

これらの事業を積極的に進めてまいりましたが、財政面では2024年度の基本金組入前当年度収支差額（正味財産の増加）は予算を大きく上回ることができました。報告の締め括りにあたり、2024年度中にいただきました学外の方々からのご寄付ご支援に深く感謝申し上げますとともに、これからも引き続き絶大なご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

# 目 次

## 第1章 学校法人明治学院の概要

1. 明治学院の建学の精神と沿革	1
2. 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・ 入学者数・収容定員・現員	3
3. 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積	4
4. 学生・生徒等納付金	5
5. 設置する学校の役員・評議員・教職員数	7

## 第2章 2024年度事業の概要

1. 法 人	
(1) 事業計画	9
(2) 事業計画の進捗状況	9
2. 明治学院大学	
(1) 事業計画	14
(2) 事業計画の進捗状況	14
(3) 教育研究に関する情報公開	19
3. 明治学院高等学校	
(1) 事業計画	20
(2) 事業計画の進捗状況	20
4. 明治学院中学・東村山高等学校	
(1) 事業計画	27
(2) 事業計画の進捗状況	27

## 第3章 2024年度財務の概要と経年比較（2020年度～2024年度）

1. 財産目録	35
2. 貸借対照表	36
3. 資金収支計算書	37
4. 活動区分資金収支計算書	38
5. 事業活動収支計算書	39
6. 財務比率検証	40
7. 監事による監査報告書	41

## 第1章 学校法人明治学院の概要

### 1. 明治学院の建学の精神と沿革

#### (1) 明治学院の建学の精神

学校法人明治学院の寄附行為には、「この法人は、教育基本法および学校教育法に従い、福音主義のキリスト教に基づいて、教育事業を営むことを目的とする」（第3条第1項）と定められている。この法人の起源は、1863（文久3）年に米国人宣教師ヘボン博士の横浜の住居に開設された「ヘボン塾」にあり、今日の1中学校、2高校、1大学（7学部17学科・7研究科12専攻）を擁する総合的な学園にまで発展してきた161年の歩みを一貫して、「キリスト教に基づく人格教育」という建学の精神を堅持しつつ、わが国教育界に独自の寄与をしている。

#### (2) 明治学院の沿革

(年)	(年)	
1859	安政6	・10月 J.C.ヘボン博士神奈川到着、成仏寺に住まう
1863	文久3	・ヘボン博士横浜で英学塾を開設（ヘボン塾）
1877	明治10	・米国長老教会などの三ミッションは一致合同して東京一致神学校を創立
1880	明治13	・4月 ヘボン塾は築地明石町7番に移転し築地大学校と改称、J.C.バラ校長となる
1881	明治14	・横浜に先志学校（M.N.ワイコフ校長）を開く
1883	明治16	・築地大学校（J.C.バラ校長）と先志学校（M.N.ワイコフ校長）は合併して東京一致英和学校となる
1886	明治19	・4月 東京一致神学校・東京一致英和学校・同予備校の三校合併案成る ・6月 明治学院の名称決定 ・白金（現在地）に校地購入
1887	明治20	・1月 明治学院設置認可 ・校地を白金に移す
1889	明治22	・10月 ヘボン博士、明治学院初代総理に、井深梶之助副総理に就任
1891	明治24	・11月 井深梶之助第2代総理に就任
1898	明治31	・6月 普通学部を尋常中学部とする
1899	明治32	・8月 文部省訓令第12号が公布され学校内の宗教教育・儀式が禁止された。学院は臨時理事会を開き、宗教教育を維持するため他の基督教主義学校と共に文部省に交渉
1907	明治40	・島崎藤村作詞による校歌を制定（作曲 前田久八）
1911	明治44	・9月 ヘボン博士米国イースト・オレンジにて逝去
1916	大正5	・3月 ヴォーリズ建築設計事務所設計による新礼拝堂献堂式挙行
1925	大正14	・4月 田川大吉郎第3代総理に就任
1930	昭和5	・神学部は学院から分離し、東京神学社と合併して日本神学校設立
1935	昭和10	・7月 総理を学院長と改称
1937	昭和12	・11月 島崎藤村自筆校歌碑建設
1949	昭和24	・明治学院大学設置認可 ・4月 大学文経学部開校
1951	昭和26	・3月 財団法人から学校法人に組織変更認可
1952	昭和27	・4月 中高分離 ・大学は文学部、経済学部の二学部に分離
1955	昭和30	・大学院文学研究科英文学専攻修士課程設置 ・東村山に校地購入
1962	昭和37	・4月 大学院文学研究科英文学専攻博士課程開設
1963	昭和38	・4月 東村山高等学校開校
1965	昭和40	・3月 中学講堂落成 ・4月 社会学部独立
1966	昭和41	・2月 白金礼拝堂にパイプオルガン設置 ・4月 中学、東村山に移転。大学法学部設置
1977	昭和52	・『明治学院百年史』を刊行
1985	昭和60	・横浜校舎開校
1986	昭和61	・国際学部／国際学科設置
1989	平成1	・5月 テネシー明治学院高等部開校
1990	平成2	・文学部／芸術学科・心理学科、法学部／政治学科設置
1991	平成3	・高校、中学・東村山高校が男女共学に移行
1996	平成8	・経済学部／経営学科（商学科を改称）設置
1998	平成10	・1月 株式会社明治学院サービス設立 ・中学・東村山高校の新校舎完成
2000	平成12	・法学部／消費情報環境法学科設置
2002	平成14	・大学教養教育センター発足
2004	平成16	・心理学部／心理学科、法科大学院設置
2006	平成18	・経済学部／国際経営学科設置
2007	平成19	・芝浦工業大学と明治学院大学との交流・連携事業が開始 ・3月 テネシー明治学院高等部閉校
2008	平成20	・2月 礼拝堂の耐震補強と復元・改修工事が完成
2009	平成21	・3月 大学高輪校舎の献堂式 ・7月「日本近代音楽館」からの資料寄贈に関する合意書取り交し ・10月 新パイプオルガン奉献式（白金礼拝堂）

2010	平成22	・4月 心理学部／教育発達学科設置
2011	平成23	・4月 国際学部／国際キャリア学科設置 ・5月 明治学院大学図書館付属日本近代音楽館開館
2012	平成24	・3月 大学13号館の献堂式
2013	平成25	・12月 創立150周年記念礼拝 ・『明治学院百五十年史』を刊行
2015	平成27	・4月 大学院「法と経営学研究科」設置 ・12月 横浜校舎開校30周年記念式典
2016	平成28	・3月 「明治学院教育ビジョン」策定 ・4月 大学院心理学研究科教育発達学専攻修士課程設置 ・11月 礼拝堂献堂100周年記念音楽礼拝
2017	平成29	・3月 法科大学院廃止
2018	平成30	・4月 法学部／グローバル法学科設置
2022	令和4	・7月 明治学院高等学校の新校舎完成
2024	令和6	・4月 情報数理学部／情報数理学科設置

## 2. 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・入学者数・収容定員・現員

(2024年5月1日現在)

学校名（所在地） 明治学院大学 （東京都港区白金台）	大学院 学 部	文学研究科 経済学研究科 社会学研究科 法学研究科 心理学研究科 法と経営学研究科 文学部・経済学部・社会学部・法学部・心理学部の3・4年次 課程
（神奈川県横浜市戸塚区上倉田町）	大学院 学 部	国際学研究科 文学部・経済学部・社会学部・法学部・心理学部の1・2年次 課程 国際学部・情報数理学部

専攻・学部・学科等名	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
大学院					
文学研究科		<b>38</b>	<b>10</b>	<b>86</b>	<b>32</b>
英文学専攻 博士（前期）課程	1955	10	2	20	4
英文学専攻 博士（後期）課程	1962	2	1	6	1
フランス文学専攻 博士（前期）課程	2000	8	0	16	3
フランス文学専攻 博士（後期）課程	2003	3	0	9	2
芸術学専攻 博士（前期）課程	2001	10	5	20	11
芸術学専攻 博士（後期）課程	2003	5	2	15	11
経済学研究科		<b>16</b>	<b>0</b>	<b>38</b>	<b>2</b>
経済学専攻 博士（前期）課程	1960	10	0	20	0
経済学専攻 博士（後期）課程	1989	3	0	9	2
経営学専攻 博士（後期）課程	1989	3	0	9	0
社会学研究科		<b>25</b>	<b>15</b>	<b>55</b>	<b>30</b>
社会学専攻 博士（前期）課程	1967	10	6	20	12
社会学専攻 博士（後期）課程	2006	2	1	6	2
社会福祉学専攻 博士（前期）課程	1960	10	7	20	13
社会福祉学専攻 博士（後期）課程	2006	3	1	9	3
法学研究科		<b>5</b>	<b>0</b>	<b>15</b>	<b>3</b>
法律学専攻 博士（後期）課程	1972	5	0	15	3
国際学研究科		<b>12</b>	<b>9</b>	<b>26</b>	<b>13</b>
国際学専攻 博士（前期）課程	1990	10	9	20	12
国際学専攻 博士（後期）課程	1992	2	0	6	1
心理学研究科		<b>34</b>	<b>17</b>	<b>72</b>	<b>35</b>
心理学専攻 博士（前期）課程	2004	20	13	40	27
心理学専攻 博士（後期）課程	2007	4	0	12	3
教育発達学専攻 修士課程	2016	10	4	20	5
法と経営学研究科		<b>20</b>	<b>16</b>	<b>40</b>	<b>31</b>
法と経営学専攻 修士課程	2015	20	16	40	31
大 学 院 計		<b>150</b>	<b>67</b>	<b>332</b>	<b>146</b>

専攻・学部・学科等名	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
学 部					
文学部	1949	505	529	2,020	2,135
英文学科	1949	225	233	900	939
フランス文学科	1965	115	122	460	468
芸術学科	1990	165	174	660	728
経済学部	1949	690	713	2,760	2,876
経済学科	1949	325	328	1,300	1,329
経営学科	1952	210	231	840	905
国際経営学科	2006	155	154	620	642
社会学部	1949	490	549	1,960	2,098
社会学科	1949	245	290	1,000	1,069
社会福祉学科	1965	245	259	960	1,029
法学部	1966	645	655	2,580	2,654
法律学科	1966	200	207	800	804
消費情報環境法学科	2000	225	221	900	927
政治学科	1990	155	154	620	637
グローバル法学科	2018	65	73	260	286
国際学部	1986	300	349	1,200	1,313
国際学科	1986	245	298	980	1,081
国際キャリア学科	2011	55	51	220	232
心理学部	2004	320	331	1,280	1,326
心理学科	2004	175	190	700	734
教育発達学科	2010	145	141	580	592
情報数理学部	2024	80	76	320	76
情報数理学科	2024	80	76	320	76
学 部 計		3,030	3,202	12,120	12,478

学 校 名		開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
明治学院高等学校 (東京都港区白金台)	全日制課程	1948	333	315	1,000	938
明治学院東村山高等学校 (東京都東村山市富士見町)	全日制課程	1963	240	257	720	760
明治学院中学校 (東京都東村山市富士見町)		1947	140	144	420	427
合計			713	716	2,140	2,125

### 3. 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積

(単位：㎡)

	所在地	使用部門	キャンパス面積	校舎面積
白金キャンパス	東京都港区白金台	大学院・大学・高校・法人	39,530	76,857
横浜キャンパス	神奈川県横浜市戸塚区上倉田町	大学院・大学	201,576	51,838
東村山キャンパス	東京都東村山市富士見町	中学・東村山高校	56,200	16,700
戸塚グラウンド	神奈川県横浜市戸塚区俣野町	大学院・大学	48,872	2,039
合 計			346,178	147,434

(2025年3月31日現在)

## 4. 学生・生徒等納付金

&lt;大学学部 (年額)&gt;

(単位：円)

学 科	1年次	2年次	3年次	4年次
	2024年度生	2023年度生	2022年度生	2021年度生
英文	1,333,590	1,056,100	1,056,100	1,096,100
フランス文	1,333,790	1,056,300	1,056,300	1,096,300
芸術	1,419,590	1,142,100	1,142,100	1,182,100
経済、経営	1,327,660	1,056,100	1,056,100	1,096,100
国際経営	1,547,660	1,081,140	1,076,100	1,116,100
社会、社会福祉	1,335,090	1,057,600	1,057,600	1,097,600
法律、消費情報環境法	1,346,590	1,069,100	1,069,100	1,109,100
グローバル法	1,562,400	1,099,100	1,099,100	1,139,100
政治	1,339,090	1,059,100	1,059,100	1,099,100
国際	1,380,400	1,113,100	1,113,100	1,149,100
国際キャリア	1,545,400	1,278,100	1,278,100	1,314,100
心理	1,405,590	1,128,100	1,128,100	1,168,100
教育発達	1,485,590	1,208,100	1,208,100	1,238,100
情報数理	1,667,590	—	—	—

\* 1年次は入学金200,000円を含む。

\* 4年次は校友会終身会費40,000円を含む。

&lt;大学院 (年額)&gt;

(単位：円)

博士前期課程・修士課程	1年次		2年次	3年次
	2024年度生		2023年度生	2022年度生
	本学卒・院修	他大卒		
英文学、芸術学、経済学 法と経営学	647,750	797,750	686,000	—
フランス文学	647,950	797,950	686,200	—
社会学、社会福祉学	649,250	799,250	687,500	—
社会福祉学（3年制コース）	480,100	630,100	477,500	517,500
国際学	650,750	800,750	689,000	—
心理学（心理学コース）	729,750	879,750	768,000	—
心理学（臨床心理学コース）	799,750	949,750	838,000	—
教育発達学	729,750	879,750	768,000	—

(単位：円)

博士後期課程	1年次		2年次	3年次
	2024年度生		2023年度生	2022年度生
	本学卒・院修	他大卒		
英文学、芸術学、経済学、経営学	648,600	798,600	646,000	686,000
フランス文学	648,800	798,800	646,200	686,200
社会学、社会福祉学	650,100	800,100	647,500	687,500
法律学	651,600	801,600	649,000	689,000
国際学	651,600	801,600	649,000	689,000
心理学	650,600	800,600	648,000	688,000

\* 1年次の金額には他大卒の学生のみ入学金150,000円を含む。

(本学学部、本学博士前期課程・修士課程、専門職学位課程出身者の場合は入学金が免除)

\* 最終年次に校友会終身会費40,000円を含む。(本学卒・本院卒で既に納入済の者は不要)

## &lt;高校・中学校（年額）&gt;

(単位：円)

	1年次		2年次	3年次	
	移行生	他校出身		移行生	他校出身
明治学院高等学校	－	1,123,916	737,825	－	707,563
明治学院東村山高等学校	1,239,000	1,259,000	904,000	839,000	844,000
明治学院中学校	－	1,198,000	858,000	－	928,000

\* 明治学院高等学校の1年次は入学金275,000円を含む。

\* 明治学院東村山高等学校の1年次は入学金280,000円（移行生は260,000円）を含む。

\* 明治学院中学校の1年次は入学金280,000円を含む。

## 5. 設置する学校の役員・評議員・教職員数

(1) 役員 理事定員22～24名(現員22名) 監事定員2～4名(現員2名) (2025年3月31日現在)

役職	氏名	就任年月日	主な現職等	非業務執行理事
理事	山崎 雅男	2017.6.1	理事長	
理事	鶴殿 博喜	2022.4.1	学院長	
理事	今尾 真	2024.4.1	明治学院大学学長	
理事	森 あおい	2024.4.1	明治学院大学副学長	○
理事	黒田 美亜紀	2024.4.1	明治学院大学副学長	○
理事	重富 真一	2024.4.9	明治学院大学国際学部長	○
理事	今井 浩	2024.4.9	明治学院大学情報数理学部長	○
理事	徳永 望	2022.4.1	明治学院高等学校校長	
理事	大西 哲也	2023.4.1	明治学院中学校・東村山高等学校校長	
理事	櫛田 健一	2021.4.1	法人事務局長	
理事	杉村 佐壽	2017.6.10	総務担当理事	
理事	山脇 則光	2024.6.1	財務理事	
理事	和田 道雄	2017.6.10		○
理事	塚本 京子	2020.6.1		○
理事	合田 隆史	2023.4.1		○
理事	大江 浩	2020.6.10		○
理事	大塩 光	2024.6.1		○
理事	黒米 忠一	2024.6.1		○
理事	金子 宏美	2020.11.1		○
理事	小谷 近之	2024.6.1		○
理事	小檜山 ルイ	2020.6.1		○
理事	西原 良信	2020.6.1		○
監事	榎本 誠	2024.6.21		
監事	真崎 修	2022.6.1		

\*教職員以外の非業務執行理事および監事については、各人と責任限定契約を締結

\*各役員の最低責任限度額に適応する役員賠償責任保険(保険期間1年間)に加入

(2) 評議員 定員45～49名(現員45名)

(2025年3月31日現在)

氏名	氏名	氏名
天野 愛子	小檜山 ルイ	芳賀 繁浩
飯 謙	鷺谷 義和	羽田 隆
飯田 浩司	塩澤 喜幸	原田 健一
石川 理	杉山 恵理子	平木 敬
伊藤 節子	孫 永律	廣田 光司
井上 隆司	高里 昇	古川 みとエライア
大江 浩	高良 研一	松田 真二
大久保 博之	竹佐古 真希	森 千草
大塩 光	柘植 あづみ	森内 美夫
大村 真樹子	辻 直人	山岡 早紀
岡 伸一	長岡 宣好	湯澤 英彦
小澤 伸男	中野 薫	吉村 哲也
黒米 忠一	永野 茂洋	和賀井 聡
合田 隆史	西田 哲也	和田 道雄
小谷 近之	西原 良信	渡邊 義彦

(50音順で記載)

## (3) 教職員

		法人	大学	高等学校	東村山高等学校	中学校	合計
常 勤	教 員	0	300	0	0	0	300
	教 諭	0	0	47	36	21	104
	準 宣 教 師	0	0	1	0	0	1
	常 勤 講 師	0	0	0	1	0	1
	助 手	0	12	0	0	0	12
	副 手	0	1	0	0	0	1
	専 門 研 究 員	0	1	0	0	0	1
	職 員	9	173	6	6	1	195
	学 院 牧 師	1	0	0	0	0	1
	主 任 カ ウ ン セ ラ ー	0	2	0	0	0	2
	ボ ラ ン テ ィ ア コ ー デ ィ ネ ー タ ー	0	2	0	0	0	2
	主 任 教 学 補 佐	0	8	0	0	0	8
	教 学 補 佐	0	34	0	0	0	34
	特 別 嘱 託 職 員	1	12	0	1	0	14
	専 任 保 健 師	0	4	0	0	0	4
	障 が い 学 生 支 援 コ ー デ ィ ネ ー タ ー	0	4	0	0	0	4
	宗 教 部 主 任 職 員	0	2	0	0	0	2
	特 別 契 約 オ ル ガ ニ ス ト	1	0	0	0	0	1
	特 別 契 約 助 手	0	1	0	0	0	1
特 別 契 約 カ ウ ン セ ラ ー	0	1	0	0	0	1	
特 別 契 約 職 員	2	12	0	0	0	14	
常 勤 小 計	14	569	54	44	22	703	
非 常 勤	客員教授・特命教授・非常勤講師	0	851	48	22	9	930
	客 員 研 究 員	0	2	0	0	0	2
	非 常 勤 嘱 託 職 員	0	29	0	0	0	29
	特 別 テ ー チ ン グ ア シ ス タ ン ト	0	39	0	0	0	39
	テ ー チ ン グ ア シ ス タ ン ト	0	19	0	0	0	19
	心 理 臨 床 セ ン タ ー カ ウ ン セ ラ ー	0	3	0	0	0	3
	心 理 臨 床 セ ン タ ー ア シ ス タ ン ト カ ウ ン セ ラ ー	0	4	0	0	0	4
	ス ク ー ル カ ウ ン セ ラ ー	0	0	1	1	1	3
	ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー	0	1	0	0	0	1
	研 究 調 査 員	0	1	0	0	0	1
	法 人 特 任 研 究 員	2	0	0	0	0	2
	非 常 勤 職 員	4	103	10	4	2	123
非 常 勤 小 計	6	1,052	59	27	12	1,156	
総 合 計	20	1,621	113	71	34	1,859	

(2024年5月1日現在)

## 第2章 2024年度事業の概要

### 1. 法人

#### (1) 事業計画

- ① 明治学院（法人）の教育＜教学＞
- ② 学校法人の自律的ガバナンスの改善と強化
- ③ 積極的な募金活動の推進＜財務＞
- ④ 明治学院の財政基盤の強化に伴う奨学金給付の拡充＜財務＞
- ⑤ キャンパスの有効活用および施設・設備の効率的整備の推進＜施設＞
- ⑥ 危機管理体制の構築の推進＜教学・施設＞
- ⑦ 株式会社明治学院サービスとの連携強化＜教学・施設・財務＞

#### (2) 事業計画の進捗状況

※◎は中期計画掲載案件、○は短期案件を表す。

#### ① 明治学院（法人）の教育＜教学＞

##### ◎【キリスト教に基づく人格教育の堅持】

##### (a) 「明治学院教育ビジョン」の見直しと新体制構築

- 1) 明治学院キリスト教主義教育推進委員会発足について  
教育ビジョン後の新体制として、2024年4月に新設された「明治学院キリスト教主義教育推進委員会」を6・10・2月の3回開催し、学院全体のキリスト教主義教育の推進と連携について検討した。
- 2) キリスト教主義教育推進委員会 部会の活動について  
委員会の下部組織として「部会」が設置され、以下のような活動を行った。

キリスト教主義教育研修会	教育ビジョンにおける共通テキスト『ヤバイぜ！聖書』作成チームの後継として、大学・中高のキリスト教学・聖書科教員によって組織された研修会。2024年度は部会を一回開催し、今後の方向性や具体的な活動計画を検討した。
キリスト教ふれあい年部会	2018年度より教育ビジョンの活動として、教職員対象に7年に1度キリスト教関連行事への積極的な参加を促すこと、リトリートの企画運営を実施しており、2024年度は部会としてその活動を継続した。
礼拝・キリスト教行事検討会	7月と10月の2回部会を開催し、各学校の礼拝やキリスト教行事の在り方や課題について情報共有を行った。
学校長懇談会	2月に大学長、高等学校長、中学・東村山高等学校長、学院長の4名で今後の連携を視野に情報交換・懇談の場を持った。
白金チャペル・オルガン管理検討会	(2024年度の部会開催なし)

- 3) 明治学院勤務員キリスト教学校教育セミナー（勤務員セミナー）  
勤務員セミナーは、教職員へのキリスト教に関する研修と交流を目的に実施しており、2024年度で54回目となる。2024年度は2024年7月31日（水）に映画『あん』上映会と助川哲也国際学部教授の講演を実施した。

##### (b) キリスト教への理解の促進

##### 1) 年間主題聖句

2024年度の年間主題聖句は「人はパンだけで生きるものではなく神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる（新約聖書・マタイによる福音書4章4節）」とし、多くの教職員や学生・生徒が意識できるように、入職式礼拝や入学式・卒業式等式典で紹介し、学院正門掲示板および学院ホームページ等で広く知らせた。

##### 2) 礼拝の充実について

2023年度に引き続き、学院牧師と大学宗教部職員による、他のキリスト教学校視察が行われ、2024年度は上智大学と桜美林大学を訪問し、担当者から直接話を聞くなどして研鑽に努めた。また、2023年度より開始した学院牧師によるスポーツ強化プロジェクト指定運動部の練習前・試合前の祈りについても継続して実施した。そのほか、地域の教会との連携事業として、日本基督教団東京教区南支区との共催「ペンテコステの集い」を5月19日（日）に開

催した。

3) パイプオルガンコンサートとリードオルガン演奏

2024年11月23日に明治学院オルガンコンサート「光に向かって～アドヴェントを前に～オルガン独奏：徳岡 めぐみ」を開催した。また、「東京文化財ウィーク2024」特別イベントとして記念館大会議室にあるリードオルガンの演奏会を1日3回（1回15分）実施した。

4) オルガン講座の実施

キリスト教音楽やパイプオルガンの魅力を広めるため、学院オルガニストを講師とした課外講座として白金・横浜両校地にて開催している。受講生には、発表の場として、各校の礼拝やキリスト教関連行事などで奏楽を担当する機会が与えられる。2024年度白金キャンパスのオルガン講座は、31名（高校生12名、大学生19名）が受講し、横浜キャンパスのオルガン講座は、大学生23名が受講した。

5) 教職員対象の研修

キリスト教学校教育同盟主催の研修について積極的に告知し、参加を促した。また、新任教職員対象の入職礼拝と職員全体研修における礼拝を実施した。新任職員研修においては、キリスト教主義教育について学ぶ場を設けた。

(c) 学院の伝統・歴史への理解促進

1) 学院の象徴でもある歴史的建造物の広報と活用

東京都主催「東京文化財ウィーク2024」に参加し、白金祭期間に合わせた11月1日（金）～3日（日）の3日間、「インブリー館」「記念館」「礼拝堂（チャペル）」の文化財3棟について内部特別公開を行った。国の重要文化財であるインブリー館の入館者数は1,408名となった。

2) ミュージアム・ビジョンの促進

歴史資料館は、2020年度に策定した「ミュージアム・ビジョン」に基づき、「知の楽しみを分かち合う」博物館文化の創造を促進するために、学生・生徒、教職員、同窓生との共創的事業モデルを段階的に進化させている。

デジタルアーカイブズを公開したことで、現物を見学するために来校される事案が多くなってきている。その一例としては、歴史資料館のHPなどで明治学院第二代総理の井深梶之助について知った新聞記者が現物見学のために来館し、取材、新聞への記事掲載に至った事例もあった。また、2023年度の明治編に続き、キリスト教研究所との協働で『井深梶之助日記 大正編』を刊行した。主に生徒向けとしては、井深梶之助の学習素材を再整備した。

大学の授業やゼミでは、学生に対して歴史的建造物が残されている意義や、貴重な現物資料を通じて、自校史について興味を持ってもらえるよう授業サポートを実施した。学生アルバイトには、「白金學報」「井深梶之助日記」「学院新聞」などの目録作成作業を通じて、より深く本学の魅力を伝えることが出来た。

学外者を対象に港区指定有形文化財であるリードオルガンの演奏を加えた講演会を開催した。

学外研究者からのレファレンスはかなり増加している。更に企画展示を通じて、遠方からの問い合わせや来館者が増えている。これまで関わりが強くなかった方々に対しても歴史資料を保有する本学の素晴らしさを広く周知できた。

② 学校法人の自律的ガバナンスの改善と強化

◎【教育・研究の質を向上させるため、社会の要請に応える実効性のあるガバナンス改革の推進】

(a) ガバナンスの継続的な改善・体制強化を図るため、以下の事項を重点的に取り組んだ。

1) 私立学校法改正（2025年4月1日施行）に対応するため、寄附行為変更を行った。理事・監事・評議員の権限分配を整理したほか、「内部統制システム整備の基本方針」および「リスクマネジメント推進規程」「コンプライアンス推進規程」を策定した。

2) クリスチャンコードに関する検討会でキリスト者条項のあり方について検討した。

3) 中期計画（2020～2024年度）の課題を総括し、次期計画（2025～2029年度）の策定をした。

4) 私立大学連盟が作成したガバナンス・コードに準拠した法人運営を行い、学生を始めとした幅広いステークホルダーへの説明責任を果たした。

(b) 法人部門と大学執行部との間で定期的に行われている懇談会を継続し、教学と経営の両輪を円滑に駆動させて、法人全体のガバナンスを強固なものとするとともに、とくに教育環境整備を最優先課題として法人運営を行った。

(c) 会計士監査、監事監査および理事会直轄の監査室の連携を強化し、三様監査の実効ある運用を継続した。特に公的研究費の管理・監査については、重点項目として詳細に実施した。また監事の理事・理事会への牽制機能の強化のもと、緊張感のある理事会運営が行われた。

③ 積極的な募金活動の推進<財務>

◎【中・高および学校法人による募金活動の推進】

- (a) 高校においては、在校生の保護者に高校教育充実のための「教育振興資金」（目標額18百万円募集期間2025年3月末）を依頼し、48件7百万円の寄付を頂くことができた。
- (b) 中学・東村山高校においては、在校生の保護者に教育条件・環境の充実のための「教育振興資金」（目標額30百万円 募集期間2025年3月末）を依頼し、83件16百万円の寄付を頂くことができた。
- (c) 学校法人においては、創立150周年を記念するために行った寄付の一部を活用した「明治学院ぶどうの木奨学基金」\*（キリスト教会牧師が扶養する中学生と大学生を対象とする奨学金）の充実を図るため、主に卒業生・教職員・企業に対して引き続き募金活動を推進した。

\*「ぶどうの木奨学基金」は2012年4月から始まり（2024年度は13年目）、この間に奨学金を受給した学生は延べ人数で100余人となり、明治学院独特の奨学金に多くの牧師から感謝が寄せられている。

- (d) 大学においては、2024年10月より2029年3月末を募集期間とする3つの募金を開始し推進した。

MG箱根駅伝2028募金 目標2億円 実績909件 28百万円  
 明治学院大学学生支援奨学金募金 目標3億円 実績421件 19百万円  
 明治学院大学キャンパスライフ応援募金 目標3億円 実績280件 14百万円

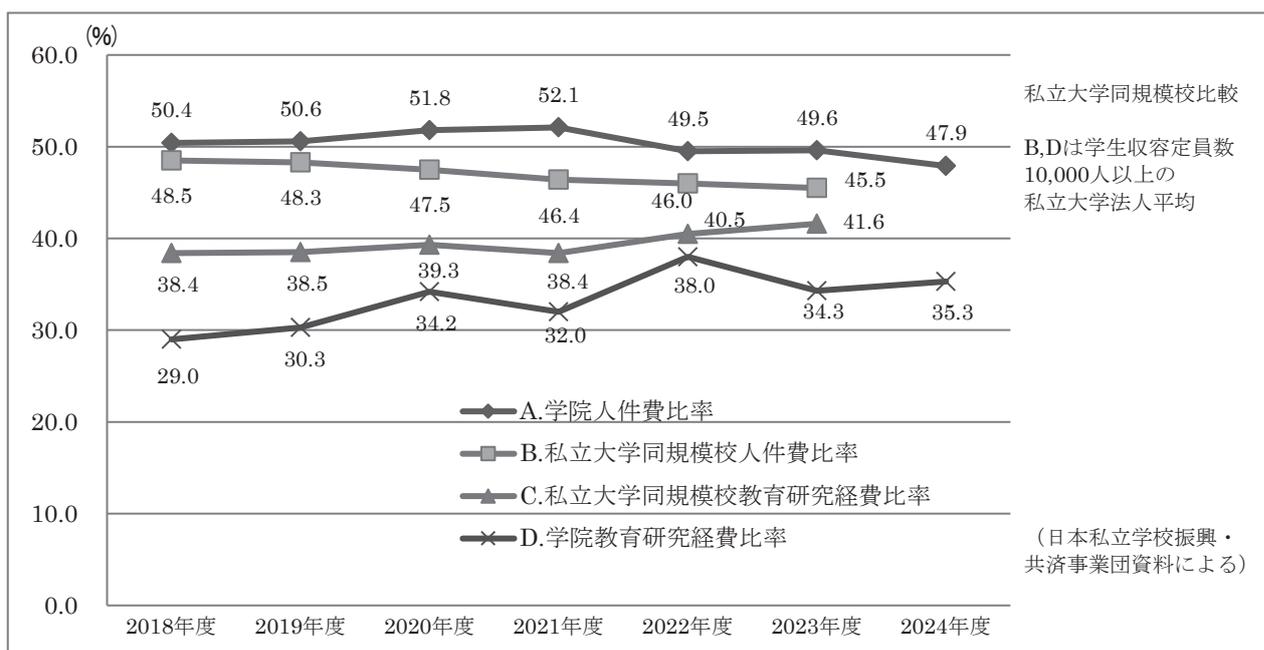
- (e) 上記以外にも大学等に対する指定寄付金として、5件25百万円の寄付を頂くことができた。

④ 明治学院の財政基盤の強化に伴う奨学金給付の拡充<財務>

◎【明治学院の財政基盤の強化】

- (a) 2024年度は、大学、高校（2023年度から）、中学・東村山高校ともに学生生徒等納付金の引き上げを行い、大学においては入学定員を上回る新入生を確保することができたこと等から収入が増加したが、一方では教職員人件費と教育研究経費の支出も増加した。
- (b) 中期財政計画の数値目標（①経常収支差額比率10%以上②当年度収支差額が事業活動収入の1%以上③日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標A2以上）については、2024年度は①および③は達成できたものの②は達成できなかった。
- (c) 学生生徒等納付金以外の収入源（手数料収入、補助金収入、施設設備利用料収入、受取利息・配当金収入等）の確保に向けて諸方策を推進するとともに、支出の部としての教育研究経費の効果的配分に努めた結果、学院の目標としている教育研究経費比率30%以上に関しては、35.3%になったものの、私立大学同規模校比較では平均を下回った。また、人件費比率は50%を下回り47.9%となったものの、私立大学同規模校比較では依然として平均よりも高い比率となった。

<人件費比率と教育研究経費比率の推移>

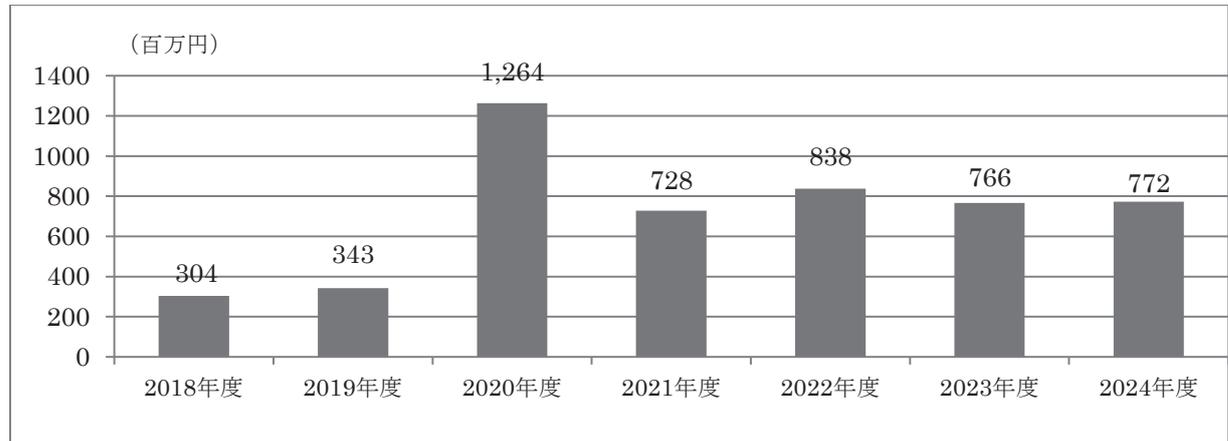


- (d) 第2号基本金の拡充  
各設置校別の第2号基本金は2024年度末において、大学が11,648百万円、中学・東村山高校が670百万円となった。

◎ 【奨学金給付の拡充】

- (a) 学業支援のため引き続き奨学金支給の増加に努めた。大学・大学院では①経済的支援②留学生対象（認定留学を含む）③学業優秀者④研究活動への支援⑤難民高等教育プログラム等への支援を行った。

<学院全体の奨学金の推移>



- (b) 第3号基本金の拡充

第3号基本金は、元本を継続的に保持運用することによって生じる果実を教育研究活動や奨学金給付に使用するために設定したもので、財政基盤強化のための重要項目となっている。

国から支給される「高等教育無償化」の対象とならない経済的困難を抱える学生に対して、明治学院大学独自の給付型奨学金（「へボン給付奨学金」）を支給する財源を安定的に確保するため、2024年度においても大学第3号基本金の積み増しを計画的に実行することができた。（2024年度末の第3号基本金引当特定資産は12,000百万円）

⑤ キャンパスの有効活用および施設・設備の効率的整備の推進<施設>

◎ 【中・高・大によるキャンパスの有効活用および施設・設備の効率的整備】

各学校における長期施設計画に基づいて、2024年度に最優先の施設・設備の整備を実施した。（なお、具体的な整備状況は、各学校の該当項目を参照）

⑥ 危機管理体制の構築の推進<教学・施設>

◎ 【事業継続のための危機管理体制の構築の推進】

- (a) 自然災害や感染症拡大等に備えて教育と研究の環境を持続していくため、事業継続計画（Business Continuity Plan）の精査を継続した。
- (b) 各学校において、災害時に必要となる基本備蓄品（水、食料の他、災害時必需品）の備蓄を維持した。
- (c) 各学校において、行政との基本連携協定等に基づく、地域の防災・防犯活動に参画した。
- (d) 中期計画で実施している大学の非構造部材耐震対策工事（天井落下防止措置）は、2024年度も白金・横浜両キャンパスとも残された部分の対策を行った。

⑦ 株式会社明治学院サービスとの連携強化<教学・施設・財務>

◎ 【学院の業務効率化への連携】

学校法人明治学院が全額出資（資本金15百万円）している株式会社明治学院サービスは、1998年1月に設立し2024年度には設立27周年を迎え、社員数121人（正社員、嘱託社員、派遣社員他）を擁して堅実に発展してきた。2024年度も法人、大学、高校、中学・東村山高校が行う様々な教育研究活動および学校運営面で協力した。

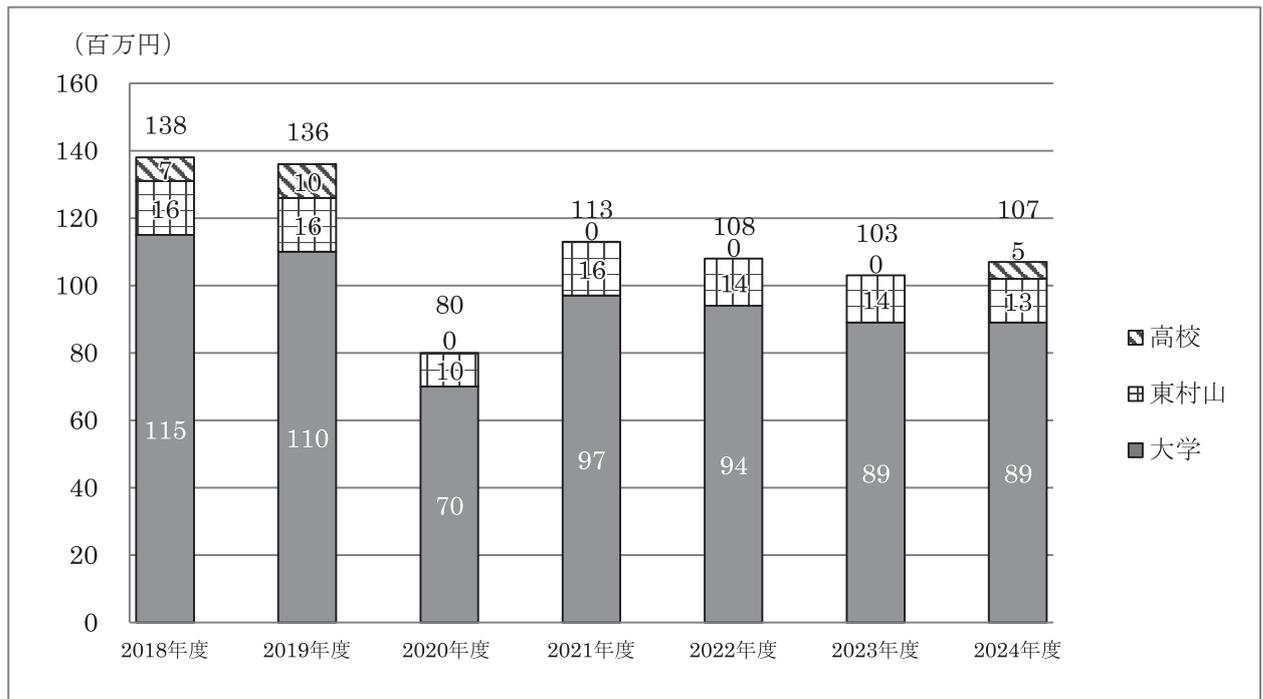
## ○【株式会社明治学院サービスの主な営業部門】

損保代理店業務・人材派遣業務・施設設備（教室）の外部貸出業務・学生のお部屋探し業務・受託業務（守衛警備、白金・横浜キャンパス総合カウンター、学生食堂、学生寮管理、自販機設置、購買店）がある。2024年度は経営環境に変化がみられる中、施設設備（教室）の外部向け貸し出し業務に注力した結果、高校新校舎の貸し出し開始もあり収入が前年度比増加した。

## ◎【明治学院中期計画への連携】

2024年度は法人、大学、高校、中学・東村山高校が行う様々な教育研究活動に協力するとともに、特に各部門が中期計画に掲げている諸項目に関しての連携にも注力した。

## &lt;学院の施設設備利用料収入への貢献&gt;



## &lt;株式会社明治学院サービスの業績推移&gt;

(千円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
売上高	859,153	840,291	843,755	914,949	831,100	872,565	879,089
当期利益（税引後）	7,352	4,883	△2,565	7,028	10,467	7,034	7,992
繰越利益剰余金	112,857	117,741	115,176	122,204	132,671	139,705	147,697

## 2. 明治学院大学

### (1) 事業計画

- ① 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>
- ② 教学改革と教育改善の推進 <教学>
- ③ グローバル教育の充実 <教学>
- ④ ボランティア活動の充実 <教学>
- ⑤ キャリアサポート体制の充実 <教学>
- ⑥ 学生へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化 <教学>
- ⑦ その他の計画 <教学>
- ⑧ 施設および設備の充実 <施設>
- ⑨ 人事体制の強化・整備 <人事>

### (2) 事業計画の進捗状況

2021年度より、明治学院大学の事業計画は、学校法人明治学院中期計画（2020-2024）に基づく施策および単年度計画のうち重点的に取り組む施策を中心に記載しており、その計画に基づき、報告を行う。

※◎は中期計画掲載案件、○は短期案件を表す。

#### ① 明治学院のキリスト教教育の展開<教学>

##### ◎【建学の精神の浸透】

チャペルアワー活性化に向けて、運動部に所属する学生向けとして2023年度に開始した黙想形式の「アスリートデイ」を全学生向けの「リスタートデイ」とした。また、例年の企画に加え、英語で聖書にふれる「English Bible Café」および午後の授業前のリフレッシュを謳った「水曜コーヒー」を新たに開始し、「音楽」、「友達づくり」、「国際交流」、「食」などを通じて、様々な学生がチャペルに足を運ぶ機会を作るための取り組みを実施した。

#### ② 教学改革と教育改善の推進 <教学>

##### ◎【AI・データサイエンス教育プログラムの拡充】

近年、AIやICTが普及し、文系の学生にも、人工知能についての理解やデータ処理能力が要求されるようになった。2023年度に全学生を対象とした「AI・データサイエンス教育プログラム」を開始し、2024年度は、482名が修了認定「ベーシック」を修得した。2025年度の修了認定「スタンダード」および「スタンダードプラス」の発行に向けた新設科目の開講と拡大する履修者数に対応するべく、教育体制の整備を行った。

##### ◎【情報数理学部の設立】

今後の情報化社会を担える人材を育成するため、2024年度に理系の新学部・情報数理学部を横浜キャンパスに開設した。開設年に当たる2024年度は、教学・研究の双方で本学の一学部としての業務が滞りなくスタートできるよう、組織面での整備・サポート体制を整えることと併行して、情報数理学部を基礎とした大学院・情報数理学研究科（仮称）の設置構想にも着手し、2027年4月の開設に向けて、準備を進めた。

##### ◎【教養教育の各学位プログラムにおける位置づけの検討】

「明治学院共通科目の編成方針の再検討と、学部学科のカリキュラムにおける共通科目の位置づけの明確化」を目的とし、担当副学長を座長とした「教養教育検討ワーキンググループ」を編成した。本ワーキンググループからの答申を基に全学的な議論を開始した。

##### ◎【教学改革に対する財政支援の検討】

2015年度より、将来的に明治学院大学の新しい看板となるような、「特徴ある教育」を育成する目的で、「学長プロジェクト」への財政支援を行ってきた。2024年度から全学展開された「海外協定校連携科目群」について、検証を行ったうえでクラス増設等の検討を行った。また、「内なる国際化プロジェクト」についても、全学的な体制構築に向けた検討と支援の継続を行った。

##### ○【相談支援体制の充実】

学生が円滑に授業を受けるために最適な支援体制の実現を目指すべく、スマートフォンを活用した出席管理システムの導入準備を進めた。これにより、出席管理の効率化が図れ、出席不良者への早期対応策を講じることが可能になる。また、一次的な相談窓口としてのチャットボットの運用も続け、真に窓口相談が必要な学生に対して丁寧な対応ができる環境を整えた。

- **【教育の質向上に向けた遠隔授業の導入】**  
2023年度に、授業を遠隔で行うためのルールを取り決め、2024年度は一定の授業を遠隔にて実施するとともに、2025年度の遠隔授業の有効活用に向けたルール改正を行った。
- **【Webを活用した授業評価アンケートの推進】**  
授業評価アンケートについて、トラブルなく実施した。教員が過去の授業評価結果を参照・集計可能にするために2023年度に運用を開始した教員マイページについても安定的に運用された。
- ◎ **【大学院の定員未充足に対する取り組み】※認証評価事項**  
2023年度に続き、日本語学校教員対象の進学説明会や日本語学校での進学相談会に参加した。春季入試について、海外在住者の受験が可能な旨を入試要項に明記し、前年を上回る外国人留学生の志願者を集めた。
- **【研究指導における指導方法およびスケジュール明示への対応】※認証評価事項**  
2023年度中に検討・調整し、2024年度にはすべての研究科・専攻において学生に対して明示した。
- **【学位論文等における審査基準の見直し】※認証評価事項**  
対象の研究科については2023年度中に規程改正を行い、2024年度に学生に対して周知を行った。
- ◎ **【研究支援】**  
2024年度は、科学研究費助成事業における「研究者が所属する研究機関別新規採択率上位30機関」において1位となった。  
研究をサポートするための体制整備として、研究倫理および利益相反の審査体制の整備・拡充を進め、研究費で雇用する専門研究員やバイアウトの制度化を行った。
- ③ **グローバル教育の充実 <教学>**
  - ◎ **【協定校とのパートナーシップの構築・強化】**  
「海外協定校連携科目群」として、日本にいながらハワイ大学マノア校の科目をライブ配信で履修できるプログラムの全学展開を開始し、2024年度は、4科目を開講し、85名が履修するなど、高いニーズがあることを確認した。
  - ◎ **【留学準備や国際的視点を養うためのサポート体制の整備】**  
留学や国際交流イベントの企画・運営・広報を行う国際センター公認の学生団体Global Associateの活動は、一般学生と交換留学生との交流だけでなく、正規留学生も含めて活動を広げており、395名の参加があった。交換留学生や本学バディ、Resident Assistant (RA) も含めて交流機会を求めている層に対しての十分なアプローチを行うことができた。
  - ◎ **【留学生と日本人学生の交流の活性化】**  
正規留学生が互いにネットワークを築き、学修や学生生活をサポートし合う外国人留学生会の活動に合計で177名の参加があった。
  - **【SDGsの理解の深化によるグローバル市民の育成】**  
渡航型プログラムには、定員（春季・夏季15名ずつ）を満たすニーズがあり、プログラムに関連する事前事後学習や渡航前説明会などは延べ人数で100名を超える参加があった。オンラインプログラムについては、コロナ禍の収束とともにニーズが低下したことに伴い、実施しなかった。
- ④ **ボランティア活動の充実 <教学>**
  - ◎ **【ボランティア・サティフィケイトの推進】**  
2024年度登録生は、第1回インテグレーション講座に出席して登録した60名中44名（73%）が第2回インテグレーション講座を受講し、前年度登録生と比較して人数および受講率が増加した。直近3カ年の平均受講率は61.3%だった。
  - ◎ **【すべての大学関係者によるボランティア活動・海外ボランティアを促進する】**  
多様なプロジェクトに対応すべく、学年・学科を問わず白金・横浜の両キャンパスで「いつでもボランティアチャレンジ」の申請を受け付け、留学生をはじめとした日本語を母語としない学生に向けた英語版の募集要項を展開した。

- **【「1 Day for Others」の見直し】**  
16団体と延べ28プログラムを新設した。うち4団体は学生団体であり、3団体は教員等からの紹介で新たに関係構築を行った。
- **【ボランティアセンターと社会連携課との連携】**  
港区との協働連携推進事業である「チャレンジコミュニティ大学」は、60歳以上の方がこれまで培ってきた知識・経験を生かし、コミュニティ活性化の原動力となる地域活動のリーダーを養成することを目的としている。2024年度に開校18年目を迎え、これまでに1,000名弱の修了生を輩出している。そのチャレンジコミュニティ大学修了生の取り組みを本学ボランティアセンターの1日社会貢献プログラム「1 Day for Others」のプログラムとして提供している。2024年度は、延べ14プログラムに30名の本学学生が参加し、交流・連携を維持している。
- ⑤ **キャリアサポート体制の充実 < 教学 >**
  - ◎ **【就職活動支援講座の充実、キャリアデザインに資する教育の充実】**  
キャリアデザインのための正課授業の認知推進や、公務員セミナー、MGキャリア講座、就活ステップアップ講座等の課外プログラムを実施した。
  - **【相談体制の充実】**  
経験年数の浅い職員に対して、特定非営利活動法人日本キャリア開発協会による「キャリアカウンセリング技能向上研修」を行い、カウンセリング技術の向上を図った。また、相談員数と相談枠の適正化に努め、学生からの高い満足度を維持した。
  - **【学外機関等と連携した就職支援の充実】**  
「グループディスカッショントレーニング」、「ブラック企業の見分け方講座」等、東京しごとセンターによる課外講座・ガイダンスを計11回実施した。ホテル白金会との連携による就職支援の取り組み「ホテル業界OBOG交流会」は、開催時期を3月から4月に変更した結果、参加者44名のうち新入生が1名参加した。
  - **【発達障がいの特徴がある学生を意識した就労等支援の充実】**  
発達障がいの特徴がある学生に対し、キャリアセンターや就職支援を行っている企業とも連携しながら、就職活動に必要な自己理解やスキルを獲得するための支援を行った。2020年度からオンライン方式だったが、2024年度は対面方式で講座を実施した。
  - **【団体・企業との連携強化】**  
様々な団体・企業から協力をいただき、寄付講座・パートナーシップ講座を開講し、実社会での現場経験を踏まえた教育の提供を推進した。

	提供元団体・企業
寄付講座	ファーストリテイリング財団、野村證券株式会社、三菱UFJ信託銀行株式会社
パートナーシップ講座	日本赤十字社、金融経済教育推進会議、日興リサーチセンター株式会社

- ⑥ **学生へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化 < 教学 >**
  - ◎ **【学業支援（奨学金）の再整備】**  
2023年度に修学支援制度とへボン給付奨学金を併給している現行制度の見直しを検討し、2025年度からの運用開始を目指した。2024年度は現在の受給者に対して、多子世帯への支援拡充にも対応しつつ、新たな運用の概要を丁寧に伝え、十分な告知を行った。
  - ◎ **【多文化共生を担う学生サポートスタッフの育成】**  
ノートテイク養成テキストの作成や関連する動画の整備、スタッフのノウハウ蓄積、運営方法の工夫等により、学生サポートスタッフ養成における効率性の向上とそれに伴うノートテイクの技量の向上、ひいては提供する支援の質の向上を継続的に図っており、スタッフ数も堅調に推移している。

## ⑦ その他の計画 &lt; 教学 &gt;

## ◎ 【首都圏以外からの学生（特別入試も含めて）の確保】

札幌、仙台、静岡、福岡において開催したOne Day Campusの来場者数は、前年並みだった静岡会場を除き、前年を大きく超える参加者があり、学外試験会場における4エリアの志願者についても全体で前年を上回った。北関東（宇都宮、水戸）と千葉で青山学院大学、明治大学、成蹊大学、成城大学、本学の5大学による合同ガイダンスを開催し、國學院大學、成城大学、獨協大学、本学の4大学で浜松と千葉で合同ガイダンスを開催した。福岡では、明治大学、立教大学、中央大学、法政大学、成蹊大学、成城大学、本学の7大学による合同の入試説明会を開催するなど、多くの来場者と接点を持つことができた。また、地方の特別入試指定校との関係強化を図った。

## ○ 【入試業務のオンライン化】

ほぼ毎月、オンラインで大学紹介と入試説明をそれぞれ2回ずつ実施した。また、国際学部国際学科と国際キャリア学科では、4月入学希望者と9月入学希望者を対象とした入試制度（主に国外からの出願者を想定）において、オンラインで面接試験を実施した。

## ○ 【内部質保証体制の再構築（内部質保証システムの有効性の検証）】 ※認証評価事項

2022年度に受審した認証評価での指摘事項を踏まえ、新しい内部質保証体制「MGモデル（▼▲Management and Go）」を始動し、自己点検・評価から改善指示発出までのPDCAサイクルを回した。

## ◎ 【広報力の強化】

## (a) ターゲットを見据えた広報展開の継続

SNSではInstagramをメインツールとして専門業者の支援を受け、投稿の検証を行いながら運用した。フォロワー、1投稿あたり表示回数ともに前年度比約120%となり若年層・大学関心層の支持を増やした。

## (b) プレスリリースの強化

ニュースの新規性にこだわらずこまめなりリリースをし、前年度比152%の35本の配信を行った。1配信あたり65~70程度のWebメディアへ転載されている。

## (c) 大学Webページの充実

動画コンテンツ「明学の理由。」の継続的な発信と入試情報サイトなどの部分的なデザイン改修を行い、ブランドイメージ強化を図った。

## (d) 情報数理学部設置を契機とした発信の強化

情報数理学部、情報科学融合領域センター、AI・データサイエンス教育プログラムといった理系/文理融合教育研究の広報に積極的に協力しニュースやプレスリリース発信を行った。

## (e) スポーツ振興を契機とした発信の強化

Road to HAKONE 2028としてロゴマークを制定し応援グッズの展開やWebページの改修を行い、明学スポーツ振興の旗印である箱根プロジェクトの広報強化を行った。

## ◎ 【横浜キャンパスプロジェクトの推進】

## (a) 通学対策

学期定期券販売は3年目を迎え、販売枚数は前年度をさらに上回る春学期4,756枚、秋学期4,376枚にのぼった。授業に合わせた急行便の増便や、バス会社・行政との調整など、通学の利便性向上を図る一方、戸塚駅・キャンパス内それぞれでの待ち時間については、引き続き課題となっている。

## (b) ピアサポートの推進

学生によるピアサポートグループ「キャンパスコンシェルジュ」は発足してから10年目を迎え、質問・相談対応にとどまらず多数の企画を立案・実施し、学内における一定の役割を担っている。一足早い大学生活の1日体験を行う高大連携プログラム「J.C.バラ・プログラム」では、本学に進学を決めた高等学校と東村山高等学校の3年生220名および大学生61名が、大学生が企画した活動で交流の場を持ち、参加者から高い満足度を得ている。

## (c) 「社会貢献・環境」活動の実施と学生への意識浸透

「環境・福祉・国際」を三本柱とする大学祭「戸塚まつり」は2日間合計で8,367名と、過去2番目の来場者数があった。同まつり内で「ヤギ部」が行った「MGヤギ牧場」にも、例年以上の参加者があったほか、ケーブルテレビでもエコな除草システムとして取り組みが取材されるなど、学内外から高い関心を得た。

(d) 飲食環境の充実

食材や光熱費、物流費などの高騰に伴い、学食の値上げは避けられなかったものの、キッチンカーで500円以下のメニューを準備してもらうなど、学生に安価で多彩なメニューを提供できるように努めた。また、「ごはん部」によるキッチンカーアンケートでは、飲食環境の充実に関する具体的な意見が寄せられたため、次年度以降の質向上につなげていく。

○【生涯学習環境の充実・リカレント教育】

2018年度より開設した、誰もが自由に参加できる生涯学習講座である「明治学院プラチナカレッジ」は7年目を迎えた。2024年度は全2シリーズで、延べ247名が参加した。

○【ハラスメント防止・対策に関する教職員への研修会（講演会）・啓発活動の強化】

2024年度は、臨床心理士を講師に招き、これまでの研修とは異なる視点で、第三者としてハラスメントや差別に居合わせたとき、事態の悪化を防ぐためにどのような介入をすればよいかについて、講義に加えて、グループワークやロールプレイを取り入れた研修を行い、後日、教職員向けにオンデマンド配信も行った。

○【校友会と同窓会の統合】

2025年3月11日付で卒業生と大学の絆を明確にすることを目指し、共に卒業生の組織である校友会と同窓会を新たに発足する学友会のもとに統合した。それまでに、卒業生に対しては統合後の姿について会報誌や書面等により広報し、同窓会を改組して発足させた組織「学友会運営委員会」に関連する規程を制定した。

◎【環境問題への取り組み】

省エネルギーのための取り組みとして照明LED化工事を計画し、白金・横浜両キャンパスで予定通り実施した。

○【ウクライナからの研究者の受け入れ】

滞在3年目を迎え、2名の受け入れ支援を継続し、本学の学生とも交流の機会を持つなど、教育活動への参加も行っている。2名のうち1名については、2024年6月末をもって帰国し、支援を終了した。

○【高輪ゲートウェイ駅周辺地区における新たな取り組み】

企業、団体、学術・研究機関等と行政が一体となって構成される「高輪ゲートウェイ駅周辺地区スマートシティコンソーシアム」の会員として活動に参加し、総会や部会での情報交換を行った。高輪ゲートウェイシティの街びらきも行われ、人の往来が活発になっていくなかで、今後は学生の参画や授業・研究でのデータ活用等を視野にいれ、検討を深めていく。

⑧ 施設および設備の充実 <施設>

◎【横浜キャンパスの整備】

2023年度に着工した新校舎の建設を遅滞なく進めた。また、「MG箱根駅伝プロジェクト」の施策として、戸塚グラウンドの黎明館（クラブハウス）の一部を体育会陸上競技部長距離ブロックの寮へ改修した。

◎【サテライトキャンパスの設置を目指す】

JR東日本を中心とした「高輪ゲートウェイ駅周辺地区スマートシティ実行計画策定委員会」にも参加しながら、サテライトキャンパスに適した候補地について、継続して調査した。

◎【図書館における主体的学びの推進】

白金キャンパスにおいて、非ドメイン端末をドメイン参加端末に変更し、学生が印刷する際の利便性を向上させた。横浜キャンパスにおいては、アクティブラーニングのための投影システム等について、検討を開始した。また、「気軽に本と接する場所をキャンパスに」をコンセプトに本や資料へのアクセスポイントを図書館外にも増やし、学生の学びを活性化することを目的に、白金・横浜両キャンパスのカフェテリアのそばに「MG BOOK SPOT」を新設した。

○【図書費概念の見直し】

電子ブック、電子ジャーナル、データベース等、各種オンライン資料にアクセスできる環境を整えている。これらの運用について継続して検討していく。

## ○【教室・実習室のAVシステムの最適化】

教室の更新工事において、オンライン配信が可能な環境を維持しつつ、授業時の投影資料の見やすさを一層重視した環境整備を進めており、機器の選定や新たな技術の導入に着手した。さらに授業前の準備における利便性向上を目的に教室マルチメディア機器操作の鍵を不要とし、マイクを常備する教室の整備を継続して進めている。さらに教室における無線ネットワークの増設、見直し等も図り、質的向上に努めた。また、実習室については、教員からの意見に基づき、機器の更新やレイアウトの見直しを行い、教育環境の向上を図った。

## ◎【防災計画】

数日間の滞在に必要な食数として、横浜キャンパスに31,488食、白金キャンパスに40,466食を備蓄した。

## ⑨ 人事体制の強化・整備 &lt;人事&gt;

## ◎【事務組織の見直しと強化】

学友会発足（2025年3月11日付）を機に、校友センターを学友センターに改めた。また、事務機能強化のために管財部に横浜管財課を設置（2025年4月1日付）する事務局職制変更を行った。

## (3) 教育研究に関する情報公開

## ① 教育方針に関する情報

「人材養成上の目的・教育目標」および3ポリシー（カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を改定し、ホームページ等で公開している。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/about/doforothers/>

## ② 教員の保有学位、業績に関する情報

教員の保有学位や研究業績については、ホームページで公開している。

<https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp>

## ③ 卒業者数、卒業後の進路に関する情報

卒業者数、卒業後の進路については、ホームページで公開している。

[https://www.meijigakuin.ac.jp/career/data/number\\_graduates/](https://www.meijigakuin.ac.jp/career/data/number_graduates/)

## ④ 教育課程に関する情報

各学科・研究科のカリキュラムおよび卒業までの流れ、各授業科目の内容・授業の方法ならびに授業計画の概要を記載したシラバスについては、ホームページで公開している。また、2020年度生より、科目ナンバリングを適用し、授業の体系性・順次性を学生にわかりやすく示している。

各学科・研究科のカリキュラムおよび卒業までの流れ<https://www.meijigakuin.ac.jp/academics/>  
シラバス<https://askyomu.meijigakuin.ac.jp/unias/UnSSOLoginControlFree>

## ⑤ 学修の成果に係る評価および卒業の認定にあたっての基準に関する情報

各授業科目の成績評価の基準については、ホームページで公開している。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/disclosure/>

## ⑥ 環境に関する情報

所在地や主な交通手段・キャンパスの概要については、ホームページで公開している。

所在地 <https://www.meijigakuin.ac.jp/disclosure/campus.html>

交通アクセス <https://www.meijigakuin.ac.jp/access/>

キャンパスの概要 <https://www.meijigakuin.ac.jp/campus/>

## 3. 明治学院高等学校

## (1) 事業計画

〔教育・研究における重点分野〕

- ① 明治学院のキリスト教教育の展開<教学>
- ② 教学改革と教育改善の推進<教学>
- ③ 国際交流活動の推進<教学>
- ④ ボランティア活動の充実<教学>
- ⑤ キャリアサポート体制の充実<教学>
- ⑥ 生徒へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化<教学>
- ⑦ その他の計画<教学>
- ⑧ 施設および設備の充実<施設>
- ⑨ スクールコンプライアンス<総務・人事>
- ⑩ 財政基盤の強化<財務>

〔生徒募集〕

- ⑪ 募集計画と入試結果

〔その他の特記事項〕

- ⑫ 『保護者の手引き』の作成
- ⑬ 校務体制の整備

〔大学合格者数の実績〕

- ⑭ 卒業生の進路（大学合格者数）

## (2) 事業計画の進捗状況

〔教育・研究における重点分野〕

- ① 明治学院のキリスト教教育の展開<教学>

## ◎ 【礼拝の充実】

日々の礼拝はキリスト者教職員、講師、学院関係者、学院牧師、準宣教師（英語礼拝）が中心となっており、学期に1回を目安にキリスト者ではない教職員によるアッセンブリー（講話）を実施した。また、礼拝暦に基づき、聖書講話・特別礼拝を教会の牧師、学校の教師、社会活動に従事しているキリスト者を招いて実施した。プロジェクターによる映像を用いた礼拝で、礼拝ホールでの礼拝も複数回実施した。

## (a) 特別礼拝

(敬称略)

日付	特別礼拝	講師
4/9	2年イースター礼拝	鮎川健一（日本キリスト教団 信濃町教会牧師）
4/15	1年イースター礼拝	北川善也（学院牧師）
4/17	3年イースター礼拝	齋藤若記子（国語科教諭）
5/15	2年ペンテコステ礼拝	関智征（日本キリスト教団 行人坂教会牧師）
5/20	1年特別礼拝（旧母の日礼拝）	篠田真紀子（日本キリスト教団 浅草教会牧師）
10/9	1年特別礼拝（キリスト教教育週間）	上條直美（フェリス女学院大学 ボランティアセンター）
10/23	2年特別礼拝（キリスト教教育週間）	吉澤慎也（KGKキリスト者学生会 総主事）
11/6	3年特別礼拝（キリスト教教育週間）	横山由利亜（YMCAウクライナ避難者支援プロジェクト責任者）
11/30	3年クリスマス礼拝	小宮一文（日本キリスト教団 富士見町教会牧師）
12/17	1, 2年クリスマス礼拝	真壁巖（日本キリスト教団 西千葉教会牧師）
12/17	3年卒業礼拝	楠山真里子（東洋英和女学院高等部 前部長）
2/3	2年信教の自由を守る日特別礼拝	比企敦子（日本キリスト教協議会NCC教育部理事）
2/5	1年信教の自由を守る日特別礼拝	細井留美（日本バプテスト連盟東京北キリスト教会牧師）

## ◎ 【キリスト教に関する学びの時の充実】

## (a) 聖書講話

実施日	場所	お話	参加者
4月4日	礼拝ホール	北川善也学院牧師	教職員54名

## (b) 明治学院にかかわる故宣教師・先達者の墓地清掃と墓前礼拝

実施日	場所	参加者
10月28日	瑞聖寺墓地	生徒8名、教員6名

生徒たちは学院の礎を築いた宣教師の名前を確認しつつ丁寧に清掃をしていた。また、清掃後に墓前礼拝を行い、生徒と教職員が共に感謝の祈りを捧げた。

## (c) 白金クリスマスツリー点灯式（共催）

実施日	場所	参加者
11月15日	記念館前芝生	今尾真学長

多くの生徒たちがカウントダウンに加わり、クリスマスの喜びを分かち合った。

## (d) アドヴェント礼拝

実施日	場所	お話	参加者
12月14日	礼拝堂	Tirzah Digennaro (本校準宣教師)	約350名

準備スタッフとして生徒が20名近く集まって共に礼拝の準備をした。

## (e) シェアリングメッセージミーティング

各学期1回、聖書科教諭と準宣教師を中心に教職員が聖書について語り合う場を持った。

## (f) 祈祷

教職員が集う会議は毎回祈りをもって始めた。また、東京のキリスト教学校の有志生徒が集い祈る「東京祈りの輪」の開催方法について、他校と協議した。

## ◎ 【生徒・保護者に働きかけるプログラムの充実】

## (a) オルガン講座

学院オルガニストによるパイプオルガン講座を生徒14名（1年2人・2年7人・3年5人）が受講した。受講生には礼拝時の前奏を担当する機会が与えられた。又、PTA教養福祉委員会主催「チャペルコンサート」で演奏を行った。

## (b) 宿泊研修会

3月27日、28日に戸塚黎明館で実施した。講師はフェリス女学院大学ボランティアセンターの上條直美先生。参加生徒9名。教職員7名。講演とワークショップを織り交ぜたプログラムに生徒は積極的に参加していた。

## (c) クリスマス献金の呼びかけ

保護者や生徒へ呼びかけ、40団体以上のキリスト教福祉団体に献金を贈った。

## ◎ 【外部団体との連携】

(a) 東京、山梨、静岡のキリスト教学校中高校長会に積極的に参加し、プロテスタント学校とのつながりと交流を深めた。

(b) 7月27日に銀座教会で開催されたキリスト教学校フェアでは、幹事校として開催準備と当日の進行の責任を担った。校長対談、フェア後の参加校交流会など、キリスト教学校同士の連帯を深める企画を実施し、学校説明会にとどまらない交流の場を主催した。

(c) 1年生に配布した「キリスト教の手引き」に教会の紹介ページを掲載し、礼拝への出席を奨励した。また、教職員の所属教会を生徒に紹介するプリントを作成し、生徒に配布した。

(d) 各教会から郵送されてくる教会案内のパンフレットやポスターを校舎エントランスに掲示し、聖書の授業でも日曜礼拝の出席を奨励した。

(e) 女子バレーボール部の部員が、都内のキリスト教学校に通う生徒がクラブ活動を通して親睦と交友の輪を広げることを目的としたOne in Christ Cupバレーボール高校女子の部に出場し、準優勝の栄誉を得るとともにキリスト教学校同士の親睦の機会を得ることができた。

## ② 教学改革と教育改善の推進&lt;教学&gt;

## ◎ 【新カリキュラム】

新学習指導要領に準拠した新カリキュラムの授業を全学年で実施。観点別評価により、各科が生徒の学習成果を多面的に評価するとともに、探究型授業やグループ学習、プレゼンテーションの機会を多く設定して、暗記に偏らない知識習得を目指した。2024年度は特に以下の指導を推進した。

(a) 全生徒が持つタブレットを積極的に活用し、動画、画像を用いた双方向の授業実践を多数行った。特に英語の授業ではオンラインでの課題提出が定着し、リーディングの課題を音声で提出

させる等、多面的に生徒の能力を評価することができるようになった。

- (b) 『学習の手引き2024』（必修および選択科目の案内）を作成し、教科内容を提示・説明するなど丁寧な指導を心掛けた。
- (c) 数学の習熟度別授業では、数学に対して苦手意識を持つ生徒を少人数クラスで丁寧に指導すると同時に、理系学部への進学を目指す生徒には積極的に難易度の高い課題を与え、能力の向上を図った。国語科や英語科でも選択授業等で緩やかな習熟度別授業を実施した。
- (d) 自由選択では韓国語講座、フランス語講座、中国語講座を開講し、語学学習とともに異文化に対する興味関心を引き出す授業を展開した。なお、韓国語に対する興味関心は高く、2024年度に引き続き2025年度でも複数クラスで授業を実施することとなった。また、フランス語への興味関心が高まり、多くの履修希望者を得たことから2025年度は複数クラスで授業を実施することにした。

### ◎【授業の改善・充実】

- (a) 学期末に行う補習、講習では多様な講座を開講し、生徒が興味関心を持つ分野の学習を深めたり、苦手意識を持つ教科を丁寧に学習し直すなど個人個人のニーズに応える授業展開を心掛けた。日常の授業では、授業内での対応が難しい細かい質問にも丁寧に答えることができる講習は、生徒と教師双方にとって充実した時間となっている。苦手教科がある生徒に対しては補習の受講を促し、長期休暇中に苦手部分を克服できるよう指導を行った。
- (b) 美術・書道などの芸術科目について、作品の制作を通して生徒の自己表現を豊かに行うことができるよう、多様な制作と発表の場を設けた。音楽の授業では、自由選択となる高校3年生でも受講生が熱心に歌唱能力を磨き、卒業式では学年全体の歌唱指導を行う機会を得ていた。また、家庭科においては調理、被服実習、消費者教育以外に保育や高齢者福祉など、生徒が各ライフステージで直面する問題について考え、疑似体験を得る機会を設けた。
- (c) 3年生の3学期に本校教諭による特別講座を開き、教科書の枠に留まらない幅広い学習の機会を提供した。平和探究、哲学入門などの教養的学習やフィールドワークなど、生徒が主体的に参加する講座が開講された。
- (d) コロナ禍で宿泊を伴わない形態で複数年実施してきた新1年生のガイダンスプログラムを、合宿形式に戻して実施した。山梨県富士吉田市の宿泊施設に1泊して「キリスト教と明治学院」、「明治学院の建学の精神と歴史」などの学習を行うと同時に、ハイキングやクラス討論など生徒の親睦を深める企画を行った。2日目には横浜の指路教会で礼拝を守り、明治学院ゆかりの地を見学した。
- (e) 2年生の「総合的な探究の時間」は、「教師と生徒がともに生き方を考えていく独自の体験・研修旅行」として、「田舎暮らし」「長崎」「沖縄」「京都」「韓国」「台湾」のコースに分かれて1年間の授業を行い、探究的な学習を深めた。コロナ禍で日程を短縮したり先行先を近郊に変えていた研修旅行を従来の形態に戻し、現地での宿泊研修や学校訪問、教会訪問を実施することができた。

### ◎【行事・課外活動の充実】

- (a) 全ての行事をコロナ禍前の状態に戻して実施した。校外ホームルームでは調理を再開し、各クラスで企画した遠足を実施した。体育祭は荒天のため順延して予備日に実施したものの、全てのプログラムを行うことができた。オリーブ祭(文化祭)では一般公開を行い、合唱コンクールは保護者も鑑賞することができた。
- (b) 学習とクラブ活動(課外活動)のバランスをとって、豊かな高校生活を過ごせるよう指導した。合宿も例年通り実施した。

#### <部活動等実績>

クラブ名	実績
写真部	第47回東京都高等学校文化祭写真部門中央大会優秀賞 2025年度全国高等学校総合文化祭東京都推薦作品 高校生フォトグランプリ組写真部門入賞
化学部	日本解剖学会・日本生理学会・日本薬理学会合同大会 (APPW2025) 第7回女子生徒による理系女子のための研究発表交流会 最優秀賞
卓球部	東京都総合体育大会 男子シングルス決勝大会進出 関東大会予選会 女子ダブルスBクラスベスト8 地区別大会 男子Aチーム南地区ベスト8

軟式野球部	2024年度春季東京都高等学校軟式野球大会 都ベスト8 第69回全国高等学校軟式野球選手権大会東京大会 3位表彰 2024年度秋季東京都高等学校軟式野球大会 都ベスト8
バドミントン部	2024年度高校総体（インターハイ）東京都予選 個人戦シングルス 東東京ベスト16（表彰あり）
陸上競技部	支部学年別選手権 男子走高跳 第5位 新人支部予選 男子走高跳 第6位 都大会進出
アメリカン フットボール部	2024年度東京都春季大会 東京都第3位 第50回関東高等学校アメリカンフットボール選手権 ベスト8 第24回スティックボウル（関東高校アメリカンフットボール地区選抜対抗戦）東京選抜8名選出（うちAチーム副将1名） 第14回ニューイヤーボウル（関東地区選抜・関西地区選抜対抗戦）東京選抜1名選出

### ③ 国際交流活動の推進<教学>

#### ◎ 【留学生の受け入れ・交流】

タイとアルゼンチンからの留学生2名を受入れ、国際交流ラウンジを拠点とした学習や活動を行うとともに、日本語や日本文化に関する特別授業を実施した。

#### ◎ 【国際交流ラウンジを活用したプログラム】

- 国際交流ラウンジ運営委員会を中心に留学経験者の報告会を11月に実施した。フランスに休学留学を行った2年生の男子が映像を交えた報告を行い、留学志望の参加者が積極的に質問する様子が見られた。
- 国際交流に興味を持つ生徒の有志団体International Exchange Societyを組織し、留学生との昼食、海外に関する関心事の交流など定期的な活動を開始した。

#### ◎ 【海外研修の充実】

- オーストラリア研修を昨年度5年ぶりに再開し、クイーンズランド州教育省の協力を得て現地校での語学研修、ホームステイを実施した。（2年生、春休み期間中の9日間）
- オーストラリアのクイーンズランド大学入学前プログラムであるクイーンズランド大学カレッジ（UQC）と提携し、海外進学を志望する生徒への情報提供を行った。
- オーストラリアでのターム留学実施に向けて、クイーンズランド州教育省（UQI）担当者と対面およびオンラインでの協議を実施した。

#### ◎ 【JETプログラムの活用】

JET（The Japan Exchange and Teaching）Programmeを利用した外国語指導助手（ALT）を引き続き任用し、外国語教育の充実と異文化交流の促進を図った。2024年度は日本に留学経験のあるアイルランド国籍のALTが配置され、英会話授業やESS部の活動に熱心に参加する様子が見られた。

#### ◎ 【高大連携の充実】

- 大学の国際センターの協力のもと、卒業生による留学ガイダンスを実施した。
- 明治学院大学で学ぶ韓国人留学生を総合探究「韓国」の授業に招き、交流を行った。

### ④ ボランティア活動の充実<教学>

#### ◎ 【明治学院大学の諸活動との連携の強化と充実】

大学ボランティアセンターの主催で、高校生が参加可能なプログラムへの参加を積極的に推奨した。

#### ◎ 【外部諸団体との連携】

- タイ・パヤオプロジェクトに携わったメンバーによる物販を行った。
- 横浜寿町の炊き出しにハイY（ハイスクールYMCA）部の生徒が参加した。
- 使用済み切手を回収し、JOCS（日本キリスト教海外医療協力会）に送付した。また、ペットボトルキャップやコンタクトレンズケースを回収し、プラスチック再利用を推進する団体に送付した。

## ⑤ キャリアサポート体制の充実&lt;教学&gt;

## ◎ 【進路指導の充実】

- (a) 「一人ひとりを大切にする進路指導」により「生徒の様々な夢をサポート」することを基本方針とし、具体的な指導を進めた。
- (b) 学年ごとの指導

	指導目標	指導内容	具体的活動	学年通信
1年生	基礎学力を培い視野を広げる	基礎学力の養成に努めるとともに、様々な価値観・生き方を知ることによって将来の可能性を広げる	進路ガイダンス、進路適性検査(学びみらいPASS)、全国模擬テスト、明治学院大学を知る会など	ほっぷ
2年生	個性を確立し、進む道を見つける	自らが将来何をしたいのか、そのための実現方法を考え行動する	進路適性検査(学びみらいPASS)、全国模擬テストなど 大学教員による出張講義は実施できなかった	すてっぷ
3年生	進路の実現に向けて飛躍する	学力の確立に努める	明治学院大学学部学科説明会、面接指導、全国模擬テスト、推薦試験説明会、大学入学共通テスト説明会など	じゃんぷ

- (c) 全校の生徒・保護者に向けて『2024年度 進路の手引き』を発行した。
- (d) 大学入試のための補習・講習を実施するとともに、一人ひとりの進路に合わせた指導を行った。
- (e) マレーシアの大学との指定校推薦協定を継続した。

## ◎ 【明治学院大学との協働】

- (a) 2024年度は明治学院大学系列校特別推薦制度により118名、高校3年生全在籍者の38.3%が明治学院大学に進学した。明治学院大学への近年の進学率は、2020年度が42.8%、2021年度が39.7%、2022年度は42.0%、2023年度が40.0%となっている。
- (b) 明治学院大学の教員の協力を得て「大学入門講座」を行った。受講者数は5名で例年よりも少なかったが、充実した討議の時を持つことができた。1学期は2週間(4時間)を一つの単位として授業を展開した。第1週(2時間)に明治学院大学から派遣して頂いた講師の講義を聴き、第2週(2時間)にその講義を元にしたグループディスカッションを行った。講義担当者、所属と講義日付は以下の通りである。2024年度は月曜日の授業時数減による影響で4名の講師にご講義頂いた(去年は5名)。
- 第1回 4月22日 永田毅 (情報数理学部情報数理学科)
- 第2回 5月27日 佐々木雄一 (法学部政治学科)
- 第3回 6月10日 古村敏明 (文学部英文学科)
- 第4回 6月24日 野沢慎司 (社会学部社会学科) ※敬称略
- 2学期も引き続きディスカッション・クエスチョンの準備に取り組み、議論の進行についての学びを深めた。
- (c) 明治学院大学入学前教育として行われる事前課題の実施、ならびに明治学院大学主催「J.C.バラ・プログラム」に大学・東村山高校と協力して取り組んだ。
- (d) 明治学院大学から教育実習生1名を受け入れ教育実習を指導した(全教育実習生3名)。
- (e) 大学宗教部職員の3名が高校礼拝での奨励を複数回行った。明治学院大学に進学する生徒にとっては、大学職員と礼拝で接することができたことは安心感につながった。

## ⑥ 生徒へのサポート体制および学業支援(奨学金)の強化&lt;教学&gt;

## ◎ 【奨学金の充実】

学内奨学金について、修学上経済的援助が必要と認められる23件(世帯)について適正に支給した。

## ◎ 【心身両面の支援】

- (a) 改正障害者差別解消法に則って、授業や定期試験などで合理的配慮を必要とする生徒に対して、別室での個別対応など、適正に支援を行った。配慮や支援の内容に関しては、スクールカウンセラーや養護教諭をはじめ、当該生徒の配慮内容に関わる部署の教員と管理職が構成する「合理的配慮に関する委員会」にて協議し、当該生徒自身と保護者へのヒヤリング内容をふま

えて決定した。

- (b) 生徒を取り巻く教育環境、現代の生徒の心理・様子等についてカウンセリング委員会を開き、情報交換して教職員に発信した。また管理職と相談員、養護教諭とのカンファレンスも定期的開催した。3学期にはカウンセラーによる研修会を開催し、生徒の自死予防についての学習と討議の時を持った。

## ⑦ その他の計画<教学>

### ◎【防災対策】

- (a) 各教室からの、より安全な避難ルートを設定するために様々な避難形態や状況を設定して避難訓練を2回実施した。
- (b) 東京私立中学高等学校協会と連携し、災害時の情報伝達訓練を実施した。
- (c) 生徒が3日間生活できることを想定し、災害対策用の備品（食糧、水、マット、災害用ブランケット、簡易トイレ等）を整備して緊急時に備えた。

### ○【健康管理】

- (a) 校内の新型コロナの感染者数、インフルエンザ感染者数ともに減少し、学級閉鎖等を行わずに通常の学校運営を行うことができた。
- (b) 高輪消防署と連携して教職員向けのAED（自動体外式除細動器）の講習会を実施した。

## ⑧ 施設および設備の充実<施設>

### ◎【校舎改築事業】

- (a) 本館1階の事務室、5階の音楽室の空調設備更新を夏期休暇期間を利用して行った。
- (b) 温水プールの配管について、老朽化による排水不備があり、修繕工事を実施した。
- (c) 本館・体育館の長期的な設備維持計画について、今後必要となる補修工事等の検討を進めた。

## ⑨ スクールコンプライアンス<総務・人事>

### ○【コンプライアンス体制】

- (a) いじめ防止について、学年会を中心に日常的に情報を集めた。また、いじめ対策委員会を適宜開催し、関係部署との情報共有を行った。
- (b) 合理的配慮を実施するに当たり、合理的配慮に関する委員会を適宜開催して配慮を必要とする生徒の状況と本校で実施可能な配慮について検討を行った。
- (c) 改正労働施策総合推進法（パワハラ防止法）への対応として、4月に弁護士を招いて研修会を行い、本校のハラスメント防止規程を作成した。
- (d) 教員の長時間労働を防ぎ、労働基準法に定められた年次有給休暇を取得できるようにするため、1年単位の変形労働時間制の導入に向けて準備を進めた。2025年3月に職場の合意を得て職場代表と労使協約書を交わすことができた。

## ⑩ 財政基盤の強化<財務>

### ○【学納金の見直し】

新校舎建築期間中は据え置いていた学納金（授業料・施設費・入学金等）について、2023年度から値上げ（年次進行）を実施した。また、物価高騰と本館の修繕に対応するため、2026年度より更なる学納金値上げを年次進行で実施することを教職員会議で決定した。

## 〔生徒募集〕

### ⑪ 募集計画と入試結果

#### (a) 広報活動

- 1) ホームページは広報の機能を重視し、行事やカリキュラム、総合探究の紹介、生徒会・クラブ活動、施設・環境、進路指導、生徒募集など多様な情報を掲載した。
- 2) 学校説明会はWeb申込みでの学校見学会として実施した。校舎内を見学できる機会ということもあり、多数の受験生と保護者の申込みを得た。（8月、10月、11月、12月の計4回）。
- 3) 外部の説明会については、キリスト教学校フェア、私学フェア2回、学習塾全国連合協議会の説明会に参加し、全て対面で実施できた。
- 4) 学校説明会（校舎見学会）参加者組数

2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
2,042組	2,675組	3,161組	3,068組

- (b) 入試広報部会を中心とした取り組みの充実
- 1) 2019年度から導入したWeb出願システムを学校見学会などの予約受付等で活用した。更に2024年度も合格発表をWeb上で行った。
  - 2) コロナ禍前の入試形態に戻し、推薦入試で2回の面接を再開できた。また、校舎のバリアフリー化により合理的配慮を必要とする受験生にも対応した。
- (c) 推薦試験合格者への働きかけ
- 1) 推薦合格者対象の基礎力確認テスト（英数国）を2023年度より再開し、苦手科目がある推薦入試合格者には入学前に補習を行った。
- (d) 入試結果

年度	2023年度				2024年度				2025年度			
	推薦	一般 ①	一般 ②	計	推薦	一般 ①	一般 ②	計	推薦	一般 ①	一般 ②	計
募集数	120	150	60	330	120	150	60	330	120	150	60	330
応募者	393	704	612	1,709	334	670	616	1,620	320	619	473	1,412
受験者	147	673	472	1,292	149	628	484	1,261	147	584	342	1,073
合格者	147	180	78	405	149	189	75	413	147	192	81	420
入学者	147	117	50	314	149	127	39	315	147	140	61	348

〔その他の特記事項〕

⑫ 『保護者の手引き』の作成

生徒の学習や生活について、保護者の理解と協力を得るために、2024年度も『保護者の手引き』を作成した。

⑬ 校務体制の整備

2022年度より、管理職と部会主任で構成される校務運営委員会は半数以上を女性が占めており、多様な視点で校務運営を行うことができるようになった。一方で、副校長が入試広報部会の主任を兼ねることによる過重負担など、今後も検討すべき課題が指摘されている。

〔大学合格者数の実績〕

⑭ 卒業生の進路（大学合格者数）

卒業生の大学合格者数については、ホームページ上で公開している。

<https://www.meigaku.ed.jp/course/result/>

## 4. 明治学院中学校・東村山高等学校

## (1) 事業計画

〔教育・研究における重点分野〕

- ① 明治学院のキリスト教教育の展開<教学>
- ② 教学改革と教育改善の推進<教学>
- ③ グローバル教育の充実<教学>
- ④ ボランティア活動の充実<教学>
- ⑤ キャリアサポート体制の充実<教学>
- ⑥ その他の計画<教学>
- ⑦ 施設および設備の充実<施設>
- ⑧ 人事体制の強化・整備<人事>
- ⑨ 財政基盤の強化<財務>

〔生徒の募集計画〕

- ⑩ 募集計画と入試結果

〔その他の特記事項〕

- ⑪ 専任教員の採用
- ⑫ Webサイトを活用した広報活動

〔大学合格者数の実績〕

- ⑬ 卒業生の進路（大学合格者数）

## (2) 事業計画の進捗状況

◎は中期計画掲載案件、○は短期案件を指す。

〔教育・研究における重点分野〕

- ① 明治学院のキリスト教教育の展開<教学>

本校では教育の理念である「キリスト教に基づく人格教育」に従い、「贖罪と愛による教育」を精神的土壌とし、「道徳人・実力人・世界人の育成」を教育目標に様々な活動を実践し、キリスト教教育の充実に努めることとしている。

## ◎【礼拝の充実】

- (a) 2023年度は2学年のみチャペルでの対面礼拝であったが、高校では4月当初から3学年そろって日常的に対面で礼拝を守れるようになった。2019年度以来のことで、コロナ禍以前の礼拝に戻ることができた。中学では1学期、2学期は各教室で放送礼拝を守ったが、3学期からは月曜日・水曜日・土曜日の週3日のみ対面礼拝に移行した。2025年度からは全日を対面礼拝に戻す。
- (b) 信教の自由を守る日講演会は、高校は2月5日に、中学は1月29日に行った。
- (c) 特別礼拝  
特別礼拝はコロナ前と同じように、中高共に近隣の教会や学院から牧師・講師を招くことができた。

(敬称略)

日付	礼 拝	中 学	高 校
4/13	イースター礼拝	石田真一郎 (教団東久留米教会牧師)	玉井宣行 (所沢ニューライフ教会牧師)
4/20	家族礼拝	北川善也 (学院牧師)	
5/15	※ペンテコステ礼拝	深山正子 (教団国分寺南教会牧師)	木戸健一 (教団小金井教会牧師)
10/28	※宗教改革記念礼拝	加藤英徳 (教団八王子教会牧師)	保科けい子 (教団立川教会牧師)
10/31	創立記念礼拝	鷗殿博喜 (学院長)	山崎雅男 (理事長)
11/9	永眠者記念礼拝	大西哲也 (本校校長)	
12/2	クリスマス点灯式	佐藤倫子 (本校教員)	
12/20	※クリスマス礼拝	五十嵐成見 (東京女子大学チャプレン)	加藤真衣子 (教団吉祥寺教会前牧師)
3/2	高3卒業礼拝	金刺茉莉恵 (本校教員)	

注) 表中※印の礼拝では献金を行い、総額約106万円を学校周辺の社会福祉施設、神学校、キリスト教諸団体他、合わせて24箇所に送金した。昨年度から能登半島地震救援募金のため、日本基督教団社会委員会を送金先として新たに追加した。

- (d) キリスト教教育懇談会  
 第1回 6/17 「本校の礼拝の様子」「教会学校の取り組みの共有」全体会のみ 参加者52名  
 第2回 11/18 「生徒が感じたキリスト教」「中高生の教会学校」全体会のみ 参加者31名
- (e) キリスト教研修会  
 第1回 4/10 「礼拝の守り方・献金について」 担当：曾武川教諭  
 第2回 10/16 「夏休み教会レポート報告」 担当：佐藤（倫）教諭

◎ 【宿泊行事・修養会の実施】

学年	場所	実施日	主題
中1	校内	6/4、6/7	「大切な私」をテーマに、自分、友だち、神様、キリスト教について考える。
	山梨富士吉田	6/5-6/6	
中2	山梨清里	6/5-6/7	「ヘボン先生とポール先生の2人の宣教師の生き方から隣人愛を考える」「清里の地で自然を体験することで神様の与えてくださった自然に親しむ」
中3	広島・京都・奈良	9/10-9/13	平和のための「地の塩、世の光」になるために何を学び、何をしなければならぬのかを学ぶ。日本の伝統文化を学ぶ。
高1	白金・横浜・静岡御殿場	6/5-6/7	聖書とヘボン博士の生涯を学び、里親支援をしているフィリピンの子供との交流活動を通じて「隣人愛」を学ぶ。
高2	長崎	6/4-6/7	日本のキリスト教の歴史について理解を深め、原爆から平和について考える。
高3	箱根	6/5-6/6	「出会い」をテーマに20キロの東海道歩行、クラスレクリエーション、「私の好きな聖句」額作成を通して神様と向き合い、御言葉を心に留め、将来に向けて考えるとともに、友人と交流する機会とする。
	校内	6/7	

② 教学改革と教育改善の推進<教学>

◎ 【授業および学習プログラムの充実】

(a) 授業の充実

本校では、2021年度より中高ともに授業時間を従前の45分から50分に延長し、更なる授業内容の充実を図ると同時に、中学（2021年度）、および高校（2022年度より年次進行）で導入した新カリキュラムに基づく授業を展開した。また、2022年度より観点別評価が高校にも年次進行で導入され、各教科で3つの観点（知識技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度）に応じてきめ細かく授業や試験を実施することに加え、様々な場面でアウトプット（プレゼンテーションやレポート、ポスター等を作成し学習内容を表現する活動）を意識した取り組みを実施した。

(b) 中学校

- 英語教材としてリスニングや発話を重視する「プログレス21」を採用している。3学期に実施した校内スピーチコンテストにおいて生徒が自信を持ってスピーチすることができた。英語検定の上位級への合格者数は、準2級62名、2級10名となっている。この教授法で効果をあげるためには家庭学習が大切であり、その指導を徹底することが家庭での学習習慣作りとして他教科の学習にも波及効果が認められる。英語力の客観的な評価を得るためにGTECを全学年で実施している。
- 数学検定は、中1終了時で5級、中2終了時で4級が目標級となっており、その後中3で3級、高1で準2級と続いていく。数学検定の受検は任意としているが、本校を会場として実施するなど受検を奨励しており、数学の学力向上の励みとなっている。
- 理科と社会では、野外実地調査により生徒の興味関心を引き出すことに努めるため、2024年度は下記の行事を実施した。

学年	場所	実施日	主な調査目的
中3	理科校外授業 (生田緑地)	11/15	地層・断層・浸食等の観察から地史を学ぶ。
中2	社会校外授業 (東京歴史散歩)	10/8	各人の興味関心を東京の史跡に発見し、かべ新聞で報告する。
中2	理科校外授業 (多摩動物公園)	5/7	日ごろ接することの少ない動物を身近に観察し、動物の食性の違いと、体のつくりの違いについて理解を深める。

- (c) 東村山高校
  - 1) 数学や英語では習熟度別クラス、少人数クラスの効果的な授業を行うことができた。
  - 2) 高2・高3では進路指導の外部関連業者も活用して、学部学科ガイダンスや進路ガイダンスを綿密に行い、明確な職業観を持って自らの進路を開拓できるように促した。
  - 3) 英語は「英検2級に合格して卒業」が目標である。さらに上位級の1級1名、準1級16名の合格者を含め、2級以上には268名が合格している。また、1学期から夏季休暇期間にかけて高1・高2を対象として外部機関によるオンライン英会話プログラム各8回の受講を課している。
- (d) 学習プログラム
  - 1) 高3のコース分けは、推薦進学コースが3クラス、理系受験コースが1クラス、文系受験コースが2クラス、高2のコース分けは、理系が1クラス、文系が5クラスとなった。
  - 2) 中学において2024年度は新しいカリキュラムの4年目であり、特に学びに向かう力と人間性等の涵養に主眼を置いた教育活動を行った。自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え判断して行動できる力を身に着けるため、体験型の教育にも力を注いだ。
  - 3) 2022年度より高校において新しい学習指導要領が実施され（高1より年次進行）、新しいカリキュラムに基づいた教育活動を行った。2024年度は3学年が揃い、新カリキュラムの完成年度となった。今後、新カリキュラムを振り返り、必要があれば変更を行う。
- (e) 外部検定試験の活用
 

客観的英語教育評価を得るために、中1から高3までを対象に、2024年度もGTECを実施した。
- (f) 補習講習
 

学習の遅れた生徒には補習を、難度の高い学習を希望する生徒向けには講習を各々設定・実施し、生徒のニーズに応えている。長期休暇中には多くの講習を実施し、生徒が学習に励むことができた。

### ◎ 【ICT教育の充実】

- (a) 2024年度は高校新入生への情報端末として、従来のiPad（セルラーモデル）からタブレット型PCのSurface（Wi-Fiモデル）に切り替えた。同対応（Wi-Fiモデル採用）により、校内無線LANの負荷が増大したため、高校棟1階（高校1年生フロア）のアクセスポイントを更新・増強した。
- (b) 2023年度に引き続き、教職員へのICT対応負担軽減策の一環として、ICT支援員を継続導入した。ICT支援員は生徒の情報端末の故障と修理に対応しつつ、教職員からの技術的な質問や相談にも応じて、各情報端末を活用した授業の支援を行うなど、生徒・教職員双方において一定の導入効果が認められた。
- (c) 授業ではGoogle Workspace の各アプリケーションやロイノートが効果的に使用された。また、高校新入生の情報端末変更により、情報の授業における、ワープロ、表計算、プレゼンテーション等のビジネスソフトの活用・学習がより一層進んだ。

### ○ 【カリキュラム・マネジメントの取組】

2024年度は、教科横断的な指針として、生徒の「自己理解、他者理解の活動」にフォーカスし、一教科に留まらない力の育成のため、各部署、各教科、各行事で実施した活動を集約し、その内容を共有した。特に、修養会や研修旅行を中心とした宿泊行事や学年活動の際の中心的テーマとしており、集約した結果を今後の学校説明会や塾対象説明会等で本校の教育活動の特色として紹介していく。

### ○ 【教職員研修】

- (a) 新年度研修会として4月4日に専任教職員向けで、「高校入試の現状と今後について」と題し、まず校長より高校入試の現状について説明があった。続いて募集入試委員会主任より、当面の対応についてまずは2025年度入試に向けての提案と中期的な検討課題についての説明がなされ、その後それらのことについて分団で討議した。4月5日には専任・常勤・非常勤合同で教科会・学年会の会議を持ち、全講師と専任新任者向けにガイダンスを実施した。
- (b) 専任新任者には原則毎週火曜2時限目に、副校長による研修を行った。
- (c) 11月13日放課後に専任教職員向けの11月研修会を実施し、8月に南海トラフ地震臨時情報が制定後、はじめて発令されたことを受け、今後災害時の具体的なマニュアルの更新、訓練について検討するための第一歩として、テーマに分かれて分団で討議した。
- (d) その他、各教科・各分掌・各人において学内はもとより外部団体主催の研修会に参加した。

## ③ グローバル教育の充実&lt;教学&gt;

## ◎ 【国際交流プログラムの実施】

- (a) 2024年度は夏期ホームステイ、グリーハンドベルクワイヤ北米演奏旅行を実施することができた。ホームステイは高校1年生2名、高校2年生6名の合計8名が7月26日から8月24日まで、ホストファミリー宅（アイオワ州、ミネソタ州、ミシガン州、テネシー州）に滞在した。グリーハンドベルクワイヤ北米演奏旅行はコロナ禍以降5年ぶりに実施することができた。高校1年生5名、高校2年生7名の合計12名が7月20日から8月20日まで、ニュージャージー州、ネブラスカ州、アイオワ州、ミネソタ州、ミシガン州、カリフォルニア州に滞在した。
- (b) 高校3年生対象のウィンターイングリッシュプログラムは2023年度よりカナダのバンクーバーにあるLCI Language Schoolにて実施しており、2024年度も募集したが最少催行人数である10名を下回ってしまったため、2024年度は実施することができなかった。

## ◎ 【留学の勧奨と留学生の受け入れ推進】

- (a) 本校独自の留学制度は休止中だが、生徒・保護者より相談があれば外部団体を紹介し、留学を勧めている。2024年度は、2023年度3学期より1年間の予定でカナダに留学（進級予約留学制度を利用）していた高2生徒が帰国・復学した。
- (b) 2024年度に新設した夏休み期間中の海外スタディツアーは、以下の2プログラムを実施した。

名 称	オーストラリア・スタディツアー	イギリス・スタディツアー
日 数	8日間	10日間
対 象	中学3年生から高校3年生	中学3年生から高校3年生
主な内容	ブリスベン近郊のBurnside State High Schoolで学校生活を送り、バディと呼ばれるサポートの生徒達と数学や生物、美術、日本語などの授業を体験 オーストラリア人家庭にホームステイし、現地の生活に触れる	ロンドン郊外パークシャーにある高校の寮に滞在、中国やイタリア、カザフスタン等から来た中高生と一緒に英語研修を受講 午後はゲームやスポーツといったアクティビティを行ったほか、オックスフォードやウィンザー城、ロンドンなどへも観光、イギリス文化や歴史にも触れる
参加者数	20名	18名

- (c) 3学期に、高校1、2年生の14名がニュージーランド・ターム留学に参加した。首都ウェリントンにある現地校7校に2名ずつ分かれて留学し、ニュージーランド人の生徒や世界各国からの留学生と一緒に学ぶことができた。また、ニュージーランド人の家庭にホームステイすることで、多くの経験をすることもできた。留学中にSDGsについて研究し、ニュージーランドと日本を比較することができた。
- (d) 東村山市からの要請により、東村山市の姉妹都市であるアメリカ・インディペンデンス市からの交換留学生（大学生3名・高校生5名・引率教員2名）を6月14日に受け入れ、交流する機会を設けた。

## ④ ボランティア活動の充実&lt;教学&gt;

## ◎ 【自主的なボランティア活動の充実】

- (a) 高校ではフィリピンとの間で27年間CFJ（Child Fund Japan、旧キリスト教国際精神里親運動）のプログラムに参加している。生徒一人毎月100円の支援金により、クラスで一人のチャイルドを支えた。
- (b) 中学3年生では、JWBF（車いすバスケットボール連盟）の協力をいただき、車いすバスケットボールの体験を通して、障がいやバリアフリーについて学ぶとともに、パラアスリートと交流することができた。
- (c) 夏休みに実施していたコイン募金を「夏期献金」と名称を変え、24万円をJOCS（日本キリスト教海外医療協力会）に送った。また、夏期献金の中から8万円を、バンコクYMCAを通してエイズ孤児や人身売買・労働搾取の被害から守られている子供たちの施設「パヤオセンター」のために資金援助した。
- (d) さらに、クラブ活動の一環として、中学ハンドベルクワイヤが毎年行っている教会においての演奏奉仕を実施した。将棋部が行っている小平市高齢者福祉施設でのお年寄りとの将棋対局ボランティア活動は2024年度も行うことができた。
- (e) 東日本大震災および能登半島地震被災者救援のための、有志高校生による被災地でのボランティア活動に2024年度は夏休み中にのべ17名の生徒が参加した。春にも7名の生徒が参加した。

## ⑤ キャリアサポート体制の充実&lt;教学&gt;

## ◎ 【キャリア教育の推進】

生徒が自分の「使命（ベールフ）」について考え発見できる機会を提供するため、キャリア講演会を実施した。

時期	対象学年	講演者（敬称略）
11/11	高1	大谷貴子（全国骨髄バンク推進連絡協議会顧問）
11/18	中3	木村良巳（元同志社中学校・高等学校校長）
11/20	中3	井上俊次（読売日本交響楽団ファゴット首席奏者）
11/25	高2	大隈公平（Bリーグコーチ）
11/27	高1	関根圭祐（FIFA公認Football Agent・47期卒業生）
12/20	中3	大堀勇翔（米国現地企業勤務・54期卒業生）

## ◎ 【進路指導の充実】

- (a) 2024年度の高3より、コース制の一部を変更し、高3から推薦進学コース、文系受験コース、理系受験コースに分かれる（高2では文系か理系を選択）初年度となったが、大きな混乱なく順調に学習カリキュラムや進路指導を行うことができた。
- (b) 現行の「学習プログラム」に基づく、進路指導の定例会議を毎週行い、各学年の指導状況、取り組みについて検討した。
- (c) 高校生向け「進路の手引き」を改訂し、配付した。大学受験指導のため、外部専門業者の分析データを活用して、高3教員向けの出願指導研修および数回に亘って模試結果の分析報告を行った。
- (d) 外部業者にお願いして、「学部系統別大学説明会（高1）」と「大学説明会（高2、高3）」を実施した。

## ○ 【明治学院大学の理系学部新設への対応】

2024年4月に明治学院大学に新設された情報数理学部（理系学部）への対応として、在校生に学部の特色や研究内容を説明するとともに、本校主催学校説明会の参加者に対して、系列大学に新設された学部として紹介した。

## ◎ 【中高大の連携推進】

## (a) 明治学院大学系列校特別推薦制度の結果

2024年度は明治学院大学系列校特別推薦制度により115名、高校3年全在籍者の46.9%が明治学院大学に進学した。明治学院大学への近年の進学率は下表の通り5割前後での推移が続いており、当面、系列校人気は続きそうである。

年 度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
明治学院大学進学率	31.3%	43.1%	41.5%	47.5%	50.2%	50.5%	52.4%	46.9%

## (b) 明治学院大学からの教育実習生の受け入れ

本校が受け入れた教育実習生10名のうち、明治学院大学からの教育実習生は社会学部3名、法学部2名の2学部から計5名であった。

## (c) 接続教育の充実

1) 推薦進学コースでは「アカデミックリテラシー」の授業による小論文・面接指導を行った。また、2019年度より、この授業内で実施される明治学院大学各学部・学科の教授の特別講義が「教養原論」として大学入学後に単位認定されることになった。2024年度は推薦進学コースにて107名が大学の単位を取得した。

2) 明治学院大学への推薦進学を目指す生徒に向けた対応として以下の高大連携プログラムを実施した。

時 期	内 容	対 象
6月	明治学院大学学部学科説明会	高3（推薦コース）
6月	明治学院大学法学部説明会	高1～高3（希望者）
6月	明治学院大学経済学部（経済学科、経営学科、国際経営学科）の特別模擬授業	高3（希望者）
6月	明治学院大学心理学部教育発達学科講演会	高3（希望者）
7月	明治学院大学国際学部（キャンパスビジット）	高1～高3（希望者）

- 3) 明治学院大学各学部の入学前教育が行われ、入学までの4カ月間、高等教育を受ける準備の時としている。2月には「J.C.バラ・プログラム」を設けて参加を促している。同プログラムは入学前に明治学院大学での生活の一端を体感できる貴重な機会となっており、教職員にとっても、高大接続、一貫教育を推進する上で有意義な機会である。
- 4) 2024年度より明治学院内に新設された、「キリスト教主義教育推進委員会」において、中高大連携の在り方について検討を重ねている。

## ⑥ その他の計画<教学>

### ◎【学校評価】

- (a) 学内研修会における中間総括・年度総括の実施  
11月および4月に実施される学内研修会において、部署・教科ごとに中間総括および年度総括を通じた自己評価を実施した。
- (b) PTA評議員会の実施  
2024年度は3回のPTA評議員会（各学期1回）を行い、学年報告、学校報告、行事報告等を実施し、生徒の取り組み状況を共有するとともに、改善点等について確認を行った。
- (c) 教育活動への第三者評価  
外部コンサルティング会社による、教育活動に対する第三者評価を実施し、改善点等を確認した。
- (d) 地域との交流
  - 1) 登校時に通学路で実施した登校指導の時間が、近隣住民との直接対話の機会としても機能した。
  - 2) 生徒の通学に際し、近隣住民からの苦情があり、生徒へ通学時の態度について再度確認するとともに、教員が通学路で登校指導をすることにより、生徒の登校状況に改善が見られた。
  - 3) 小平特別支援学校の高等部生徒会と本校高3生が11月に交流会を行った。今回はグループに分かれ、主にボッチャを一緒に楽しんだ。両校の生徒にとって大変有意義な交流であり、今後もこの活動を継続していけるよう体制を整えていく。登校時に通学路で実施した登校指導の時間が、近隣住民との直接対話の機会としても機能した。

### ○【危機管理】

- (a) 火災・地震などを想定した避難訓練を実施した（10月）。東京私立中学高等学校協会第11支部と連携し、災害時の伝達訓練を実施した（9月）。
- (b) 全校生徒分の災害時の非常食（3日分）の備蓄をしている。
- (c) 勤務員研修として、非常勤講師を含め、不審者侵入時の対応訓練を実施した（3月）
- (d) 本校の警備体制の強化に向けた、「警備体制強化プロジェクトチーム」を立ち上げて、警備体制の在り方と所要額に関する検討に着手した。

### ○【スクールコンプライアンス】

- (a) いじめ防止対策推進法に基づく対応  
「いじめ防止対策基本方針」に基づき、定例化した「いじめ対策委員会」を運営し、いじめの早期発見に努めた。加えて、匿名いじめ通報アプリ「スクースサイン」や学校ポストなど諸方策を継続して実施した。
- (b) ハラスメント対策  
改正労働施策総合推進法（通称、パワハラ防止法）への対応として、「ハラスメント委員会」を設置し、ハラスメント防止について協議した。
- (c) 特別支援委員会  
合理的配慮の義務化に伴い、定例化した「特別支援委員会」を運営し、特別な配慮や支援が必要な生徒について、委員と学年教員との間で情報交換や具体的な支援内容を検討し実行した。また、特別支援員と連携しつつ別室指導などの具体的な対応を実施した。
- (d) 改正労働基準法への対応  
導入3年目を迎える「1年単位の変形労働時間制」の運用を継続した。定期試験時の有給休暇取得につき、試験の運営が滞らないように事前申告制とした。

## ⑦ 施設および設備の充実<施設>

### ◎【設備の維持管理計画】

2024年度の大型工事としては、管理棟外壁改修工事および高圧ケーブル更新を実施した。また、PTAからの寄付金を主な原資として、チャペル内の椅子更新および床の改修工事を行った。

◎ 【中学棟・講堂棟・チャペルの整備計画】

中学棟・講堂棟の建て替えに向けて、中期的な視野から検討課題の抽出および他校事例（校舎建築実施先）の研究等を目的として、2023年度に立ち上げた「第一次検討部会」において、建て替えに向けた資金計画に関する情報共有と他校の校舎見学等を中心とした活動を行い、前者に関しては、「第二号基本金組入計画の変更」を行った。

⑧ 人事体制の強化・整備<人事>

◎ 【就労環境の整備】

- (a) 2021年度以降、定年等の理由により退職する教員が多く、この4年間で計13名が退職する一方、ほぼ同数の新任教員が着任し、全教員の4分の1が入れ替わった。既存業務の引継ぎ円滑化・可視化を目的に、「勤務員ハンドブック」の内容改訂・拡充を実施した。
- (b) 教職員の業務負担軽減策の一環として、ICT関連業務のサポート目的で2023年度より試験的に導入したICT支援員については、一定の導入効果が認められたため、2024年度も継続導入した。2025年度においても引き続き継続する予定である。
- (c) 2023年度に試行的に導入したデジタル採点システムについては、利用を希望する教員が増加傾向にある点を考慮し、10アカウント追加して50アカウントとした。入試における採点でも活用された。
- (d) また、教員の負担軽減策として分掌会の見直しおよびクラブ活動における外部指導員の導入に向けた検討を開始した。

⑨ 財政基盤の強化<財務>

◎ 【収入の増加と支出の見直し】

進行している物価高騰への対応として、2024年度より学納金の値上げを年次進行で実施したが、2024年度も物価高騰の流れが継続したため、大きな収支改善には至らなかった。

〔生徒の募集計画〕

⑩ 募集計画と入試結果

○ 【募集対策】

(a) 広報活動

2024年度の主な活動内容は下表の通りである。学校説明会と同日に実施していた高校受験の「推薦入試個別相談会」については、2024年度より、別途、専用の日程を追加設定して対応した。

行事・イベント名	中学受験向け（小学生対象）	高校受験向け（中学生対象）
学校説明会（来校型）	7日／7回実施 参加:1,299組	5日／5回実施 参加:524組
オープン・キャンパス	7/15(祝)13:00～ 参加:277組	7/15(祝)9:00～ 参加:322組
中学クラブ体験会	11/16(土)14:00～ 参加:73組	
高校推薦入試個別相談会		8/31(土)、9/14(土)、11/9(土)、11/30(土)、12/7(土)の計5回実施、参加:145組
中学校訪問		延べ106校
学習塾訪問	延べ197塾	
塾対象学校説明会	2回実施 延べ115塾・136名が参加	
合同相談会	36回参加 延べ141名の教職員を動員	

(b) 入試の状況分析

中学入試は久々の応募者増で2021年度入試の水準まで回復することができた。多様な海外体験ができるよう、学内の体制を整え、告知にも成功した結果と思われる。

高校入試では併願優遇制度などを大幅に変更することで応募し易い入試を目指した。結果、女子の応募が回復し、昨年、一昨年を上回る応募者を得ることができた。東京都による私立高校授業料無償化の影響も大きいものと思われる。

## ○ 【2025年度生募集結果】

## (a) 中学校

年 度	2023年度				2024年度				2025年度			
	2/1	2/2	2/4	計	2/1	2/2	2/4	計	2/1	2/2	2/4	計
日 程												
定 員	60	60	20	140	60	60	20	140	60	60	20	140
応 募 者	447	352	316	1,115	428	344	292	1,064	475	384	311	1,170
受 験 者	429	245	163	837	404	232	149	785	449	246	155	850
合 格 者	161	80	50	291	152	82	50	284	183	80	38	301
入 学 者	56	49	39	144	64	51	29	144	71	47	33	151

## (b) 東村山高校

年 度	2023年度		2024年度		2025年度	
	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般
入 試						
定 員	50	70	50	70	50	70
応 募 者	88	165	67	144	53	175
受 験 者	69	151	62	131	53	169
合 格 者	69	95	62	103	53	139
新入学者	73	54	69	62	53	71
移 行 生	132		131		134	
総入学者	259		262		258	

## 〔その他の特記事項〕

## ⑪ 専任教員の採用

採用計画に基づき、2024年度は4名（国語科、理科、音楽科、体育科）の教員が入職した。2025年度も計画通り2名（国語科、社会科）が入職予定となっている。

## ⑫ Webサイトを活用した広報活動

学校行事報告、イベント告知、クラブ活動報告など、112件の新着情報(NEWS&TOPICS)と、受験生向けの入試情報を随時Webサイトに掲載し、外部への情報発信を行った。

## 〔大学合格者数の実績〕

## ⑬ 卒業生の進路（大学合格者数）

卒業生の大学合格者数については、Webページ上で公開している。  
<https://www.meijigakuin-higashi.ed.jp/shinro/sinro/>

### 第3章 2024年度財務の概要と経年比較（2020年度～2024年度）

#### 1. 財産目録

資産総額	125,293百万円
1 基本財産	53,408百万円
2 運用財産	71,885百万円
負債総額	10,504百万円
純資産	114,788百万円

(単位：百万円)

区 分	2024年度末	
資産額		
1 基本財産		
土地	347,072㎡	17,069
建物	148,930㎡	18,701
建物付属設備	1,224件	6,630
構築物	372件	1,299
図書	1,245,770冊	5,843
教具・校具・備品	44,695点	1,577
その他		2,286
2 運用財産		
現金預金		6,840
その他		65,044
資産総額		125,293
負債額		
1 固定負債		5,625
長期借入金		940
退職給与引当金		4,681
長期未払金		4
2 流動負債		4,879
短期借入金		61
その他		4,817
負債総額		10,504
純資産		114,788

※ 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

## 2. 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
資産の部					
固定資産	110,508	111,789	114,094	115,903	117,947
有形固定資産	49,771	50,266	51,913	52,488	52,795
土地	17,069	17,069	17,069	17,069	17,069
建物（含付属設備）	22,964	22,944	26,173	26,132	25,332
構築物	1,326	1,209	1,159	1,436	1,299
教育研究用機器備品	1,302	1,229	1,547	1,451	1,508
管理用機器備品	69	86	77	69	68
図書	5,585	5,664	5,712	5,771	5,843
その他	1,452	2,063	172	556	1,672
特定資産	60,416	61,263	61,956	63,024	64,465
第2号基本金引当特定資産	14,594	14,321	13,818	13,527	13,148
第3号基本金引当特定資産	10,768	11,268	11,768	12,268	12,768
退職給与引当特定資産	4,844	4,782	4,749	4,752	4,681
国際交流引当特定資産	2	2	2	2	2
減価償却引当特定資産	26,847	27,591	28,215	29,054	30,471
山岳事故緊急対策積立引当特定資産	11	11	11	11	11
法人基金引当特定資産	3,080	3,021	3,019	3,015	3,015
日本近代音楽館引当特定資産	184	185	185	185	185
その他の引当特定資産	81	77	184	205	181
その他の固定資産	320	259	224	391	687
長期貸付金	36	24	17	9	7
その他	283	235	207	381	679
流動資産	6,110	7,144	6,938	7,304	7,345
現金預金	4,854	6,370	6,382	6,600	6,840
その他	1,255	774	555	704	505
資産の部合計	116,618	118,934	121,033	123,208	125,293

負債の部					
固定負債	5,203	5,124	5,820	5,761	5,625
長期借入金	351	331	1,061	1,001	940
退職給与引当金	4,844	4,782	4,749	4,752	4,681
長期未払金	7	11	10	8	4
流動負債	4,316	4,580	4,554	4,834	4,879
短期借入金	1	20	20	61	61
前受金	2,684	2,741	2,703	2,984	2,910
その他	1,631	1,818	1,830	1,789	1,907
負債の部合計	9,520	9,705	10,375	10,596	10,504
純資産の部					
基本金	112,410	113,995	115,834	117,441	119,748
第1号基本金	85,777	87,086	88,928	90,239	92,426
第2号基本金	14,594	14,321	13,818	13,527	13,148
第3号基本金	10,768	11,268	11,768	12,268	12,768
第4号基本金	1,269	1,318	1,318	1,405	1,405
繰越収支差額	△ 5,312	△ 4,766	△ 5,176	△ 4,829	△ 4,960
翌年度繰越収支差額	△ 5,312	△ 4,766	△ 5,176	△ 4,829	△ 4,960
純資産の部合計	107,098	109,228	110,657	112,612	114,788
負債及び純資産の部合計	116,618	118,934	121,033	123,208	125,293

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

## ◆貸借対照表についての説明

- 貸借対照表：学校法人明治学院の財政状況が健全であるかどうか、また教育・研究のために必要な資産を保有しているかを表している。
- 資産：2024年度末の資産合計は、125,293百万円となり、前年度比2,084百万円（1.6%）増加した。
- 資産の内訳：固定資産は117,947百万円となり、前年度比2,043百万円（1.7%）増加した。その中で、将来の特定の支出に備えるために資金を留保している特定資産は、64,465百万円となり、前年比1,441百万円（2.2%）増加した。流動資産は、7,345百万円となり、前年度比40百万円（0.5%）増加した。
- 負債：2024年度末の負債合計は、10,504百万円となり、前年度比91百万円（0.8%）減少した。
- 借入金：年度末における長期と短期を合わせた借入金残高は1,002百万円となった。また借入金利息として7百万円を支払った。
- 基本金：2024年度末合計は119,748百万円となり、前年度比2,307百万円（1.9%）増加した。
- 純資産の部：学校法人を永続的に維持するために保持しなければならない純資産（基本金＋翌年度繰越収支超過額）が、114,788百万円となり、前年度比2,176百万円（1.9%）増加した。

## 3. 資金収支計算書

(単位：百万円)

科目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
収入の部					
学生生徒等納付金収入	14,687	14,603	15,229	15,329	15,964
手数料収入	708	676	756	775	948
寄付金収入	153	156	125	129	148
補助金収入	2,305	2,287	2,363	2,433	2,597
国庫補助金収入	1,450	1,410	1,428	1,522	1,352
地方公共団体補助金収入	852	876	934	910	1,244
その他補助金収入	1	0	0	0	0
資産売却収入	18,426	10,409	2,644	1,760	5,607
付随事業・収益事業収入	132	156	175	207	244
受取利息・配当金収入	1,172	1,291	1,382	1,420	1,479
雑収入	525	718	496	486	505
借入金等収入	0	0	750	0	1
前受金収入	2,684	2,741	2,703	2,984	2,910
その他の収入	1,453	2,243	2,457	1,417	1,703
資金収入調整勘定	△ 3,149	△ 3,362	△ 3,190	△ 3,154	△ 3,369
当年度資金収入合計	39,100	31,921	25,894	23,789	28,741
前年度繰越支払資金	5,771	4,854	6,370	6,382	6,600
収入の部合計	44,872	36,776	32,265	30,172	35,342
支出の部					
人件費支出	10,130	10,380	10,129	10,274	10,518
(内、退職金支出)	(463)	(679)	(403)	(370)	(382)
教育研究経費支出	5,100	4,699	5,998	5,359	5,821
管理経費支出	1,048	1,020	1,135	1,342	1,330
借入金等利息支出	2	1	4	7	7
借入金等返済支出	91	1	20	20	61
施設関係支出	1,807	1,817	2,768	2,032	1,804
設備関係支出	555	351	715	556	797
資産運用支出	20,703	12,216	5,088	3,745	8,253
その他の支出	1,359	781	935	1,078	915
資金支出調整勘定	△ 779	△ 863	△ 912	△ 845	△ 1,008
当年度資金支出合計	40,018	30,405	25,883	23,572	28,501
翌年度繰越支払資金	4,854	6,370	6,382	6,600	6,840
支出の部合計	44,872	36,776	32,265	30,172	35,342

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

## ◆資金収支計算書についての説明

- 資金収支計算書：2024年度中の諸活動に対応するすべての資金の収入と支出の内容を明らかにする計算書である。
- 当年度資金収入合計：2024年度は、28,741百万円となり、前年度比4,952百万円（20.8%）増加した。
- 収入の部合計：前年度繰越支払資金6,600百万円を加えた資金収入の部合計は35,342百万円となった。
- 当年度資金支出合計：2024年度の資金支出の合計額は28,501百万円となり、前年度比4,930百万円（20.9%）増加した。
- 翌年度繰越支払資金：収入の部合計と当年度資金支出合計の差額が翌年度繰越支払資金となる。2024年度は6,840百万円の繰越をすることになり、前年度より240百万円（3.6%）増加した。

4. 活動区分資金収支計算書

(単位：百万円)

		科目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	14,687	14,603	15,229	15,329	15,964
		手数料収入	708	676	756	775	948
		特別寄付金収入	134	136	109	111	136
		経常費等補助金収入	2,117	2,216	2,265	2,372	2,553
		付随事業収入	132	156	175	207	244
		雑収入	525	717	496	486	505
		教育活動資金収入計	18,306	18,506	19,032	19,282	20,353
	支出	人件費支出	10,130	10,380	10,129	10,274	10,518
		教育研究経費支出	5,100	4,699	5,998	5,359	5,821
		管理経費支出	1,048	1,020	1,135	1,342	1,330
		教育活動資金支出計	16,279	16,099	17,262	16,976	17,670
	差引	2,026	2,407	1,770	2,306	2,682	
	調整勘定等	42	△ 9	234	199	141	
	教育活動資金収支差額	2,069	2,398	2,004	2,505	2,824	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	19	20	15	18	12
		施設設備補助金収入	187	71	97	60	44
		第2号基本金引当特定資産取崩収入	811	792	1,052	872	979
		減価償却引当特定資産取崩収入	0	26	617	0	0
		施設整備等活動資金収入計	1,018	911	1,783	951	1,036
		施設関係支出	1,807	1,817	2,768	2,032	1,804
	支出	設備関係支出	555	351	715	556	797
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	410	520	550	581	600
		減価償却引当特定資産繰入支出	1,515	770	1,241	839	1,416
		施設整備等活動資金支出計	4,289	3,459	5,275	4,009	4,618
		差引	△ 3,270	△ 2,548	△ 3,492	△ 3,058	△ 3,582
	調整勘定等	△ 175	130	0	7	4	
	施設整備等活動資金収支差額	△ 3,446	△ 2,417	△ 3,491	△ 3,051	△ 3,577	
	小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 1,376	△ 19	△ 1,486	△ 545	△ 753	
その他活動による資金収支	収入	借入金等収入	0	0	750	0	1
		有価証券売却収入	18,426	10,409	2,644	1,760	5,607
		その他の資産売却収入	0	0	0	0	0
		保証金精算収入	0	0	0	0	0
		貸付金回収収入	17	20	15	13	11
		退職給与引当特定資産取崩収入	96	78	74	36	91
		国際交流引当特定資産取崩収入	0	0	0	0	1
		法人基金引当特定資産取崩収入	0	59	1	4	0
		日本近代音楽館引当特定資産取崩収入	9	0	0	0	0
		その他の引当特定資産取崩収入	16	4	3	4	23
		立替金回収収入	0	1	0	0	141
		仮払金精算収入	0	0	0	1	0
		預け金回収収入	15	520	12	12	3
		預り金受入収入	110	96	0	19	0
		仮受金受入収入	0	0	1	3	0
	小計	18,693	11,189	3,504	1,856	5,881	
	受取利息・配当金収入	1,172	1,291	1,382	1,420	1,479	
	為替差益	-	0	0	0	0	
	その他の活動資金収入計	19,866	12,482	4,886	3,276	7,361	
	支出	借入金等返済支出	91	1	20	20	61
		有価証券購入支出	18,426	10,409	2,644	1,760	5,716
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	300	500	500	500	500
		退職給与引当特定資産繰入支出	50	15	41	39	20
		国際交流引当特定資産繰入支出	0	0	0	0	0
		日本近代音楽館引当特定資産繰入支出	0	1	0	0	0
		その他の引当特定資産繰入支出	0	0	111	25	0
		貸付金支払支出	9	4	7	4	7
		立替金支払支出	0	0	0	141	0
		仮払金支払支出	0	0	2	0	0
		預け金支払支出	520	13	12	13	12
預り金支払支出		0	0	43	0	39	
仮受金支払支出		6	0	0	0	1	
小計		19,405	10,944	3,383	2,505	6,359	
借入金等利息支出		2	1	4	7	7	
その他の活動資金支出計	19,407	10,945	3,388	2,512	6,366		
差引	458	1,536	1,498	764	994		
調整勘定等	0	0	0	0	0		
その他の活動資金収支差額	458	1,536	1,498	763	993		
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 917	1,516	11	217	240		
前年度繰越支払資金	5,771	4,854	6,370	6,382	6,600		
翌年度繰越支払資金	4,854	6,370	6,382	6,600	6,840		

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

## 5. 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

		科目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
教育活動収入	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	14,687	14,603	15,229	15,329	15,964
		手数料	708	676	756	775	948
		寄付金	134	136	109	111	136
		経常費等補助金	2,117	2,216	2,265	2,372	2,553
		国庫補助金	1,270	1,357	1,380	1,485	1,326
		地方公共団体補助金	845	859	885	887	1,226
		その他補助金	1	0	0	0	0
		付随事業収入	132	156	175	207	244
		雑収入	545	717	511	486	519
		教育活動収入計	18,326	18,507	19,047	19,282	20,367
	事業活動支出の部	人件費	10,104	10,317	10,110	10,277	10,461
		(内退職給与引当金繰入額)	(437)	(617)	(385)	(373)	(324)
		教育研究経費	6,675	6,327	7,759	7,091	7,714
		(内、減価償却額)	(1,575)	(1,628)	(1,760)	(1,731)	(1,892)
管理経費		1,130	1,106	1,224	1,438	1,429	
(内、減価償却額)		(82)	(86)	(89)	(96)	(98)	
徴収不能額等	0	0	0	0	0		
教育活動支出計	17,910	17,752	19,094	18,807	19,605		
		教育活動収支差額	415	754	△ 46	475	761
教育活動外収入	収入の部	受取利息・配当金	1,172	1,291	1,382	1,420	1,479
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	1,172	1,292	1,382	1,420	1,479
	支出の部	借入金等利息	2	1	4	7	7
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	2	1	4	7	7
		教育活動外収支差額	1,170	1,291	1,377	1,413	1,472
		経常収支差額	1,585	2,046	1,331	1,888	2,234
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	223	106	125	92	73
		施設設備国庫補助金	180	53	47	37	25
		施設地方公共団体補助金	6	17	49	23	18
		その他	35	35	27	32	29
		特別収入計	223	106	125	92	73
	事業活動支出の部	資産処分差額	191	22	27	27	131
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	191	22	27	27	131
		特別収支差額	31	84	97	65	△ 58
		基本金組入前当年度収支差額	1,617	2,130	1,428	1,954	2,176
		基本金組入額合計	△ 1,630	△ 1,584	△ 1,838	△ 1,607	△ 2,307
		当年度収支差額	△ 12	546	△ 409	346	△ 130
		前年度繰越収支差額	△ 5,302	△ 5,312	△ 4,766	△ 5,176	△ 4,829
		基本金取崩額	2	0	0	0	0
		翌年度繰越収支差額	△ 5,312	△ 4,766	△ 5,176	△ 4,829	△ 4,960
		事業活動収入計	19,721	19,906	20,555	20,796	21,920
		事業活動支出計	18,104	17,775	19,126	18,841	19,744

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

## ◆事業活動収支計算書および基本金についての説明

- 学生生徒等納付金：学則や募集要項で所定の額を納入すべき旨が記載されているもので、授業料、入学金、実験実習料、施設設備資金等がある。2024年度は学院全体で15,964百万円となり、前年度比635百万円（4.1%）増加した。
- 手数料：入学検定料が主な収入である。志願者数が増加したため2024年度は948百万円となり、前年度比173百万円（2.5%）増加した。
- 補助金：国庫補助金と地方公共団体補助金が主な収入である。2024年度は学院全体で2,597百万円となり、前年度より164百万円（6.7%）増加した。
- 事業活動収入計：学校法人の収入のうちで、負債とならない収入の総額である事業活動収入計は、21,920百万円となり、前年度より1,124百万円（5.4%）増加した。
- 人件費：2024年度の人件費総額は10,461百万円となり、前年度比183百万円（1.7%）増加した。
- 教育研究経費：2024年度の教育研究経費は7,714百万円となり、前年比623百万円（8.7%）増加した。
- 事業活動支出計：2024年度の事業活動支出計は19,744百万円となり、前年比902百万円（4.7%）増加した。
- 当年度収支差額：2024年度は130百万円の支出超過となり、前年比477百万円減少した。
- 基本金の種類と目的：第1号基本金は、学校の設置や既設の規模の拡大等で教育の用に供されるために取得した固定資産の価額で、2024年度末で92,426百万円（前年度比2,186百万円増）となる。  
第2号基本金は学校の設置や既設の規模の拡大等で教育の用に供されるために将来取得する固定資産の取得に充てる資産額で、2024年度末で、13,148百万円（前年度比379百万円減）を保有している。  
第3号基本金は、基金の運用から得られる果実を奨学金等の特定の目的に充てるために、基金として継続的に保持する資産額で、2024年度末には12,768百万円（前年度比500百万円増）を保有している。  
第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金額で「人件費＋教育研究経費＋管理経費＋借入金利息」の合計の1/12（1カ月分）となっている。2024年度末には1,405百万円（前年度同額）を保有している。

## 6. 財務比率検証

### (1) 財務比率について

2024年度決算数値による財務比率は下記のとおりである。

#### 《2024年度事業活動収支計算書関係比率》

比率名称		指標	2024年度 本学決算	2023年度 大学法人平均
①	人件費比率 (人件費／経常収入)	▼	47.9%	【45.5%】
②	人件費依存率 (人件費／学生生徒等納付金)	▼	65.5%	【76.3%】
③	教育研究経費比率 (教育研究経費／経常収入)	△	35.3%	【41.6%】
④	管理経費比率 (管理経費／経常収入)	▼	6.5%	【6.7%】
⑤	基本金組入後収支比率 (事業活動支出／(事業活動収入-基本金組入額))	▼	100.7%	【103.2%】
⑥	学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金／経常収入)	△	73.1%	【59.7%】

#### 《2024年度貸借対照表関係比率》

比率名称		指標	2024年度 本学決算	2023年度 大学法人平均
①	純資産構成比率 (純資産／(総負債+純資産))	△	91.6%	【86.8%】
②	固定比率 (固定資産／純資産)	▼	102.8%	【99.9%】
③	流動比率 (流動資産／流動負債)	△	150.6%	【231%】
④	負債比率 (総負債／純資産)	▼	9.2%	【15.3%】
⑤	退職給与引当特定資産保有率 (退職給与引当特定資産／退職給与引当金)	△	100.0%	【67.5%】
⑥	基本金比率 (基本金／基本金要組入額)	△	99.8%	【97.6%】

※ 【 】内は学生数10,000人以上の私立大学法人平均  
(日本私立学校振興・共済事業団資料による)

※ 指標：一般的な評価「△：高い値が良い」「▼：低い値が良い」

### (2) 点検・評価および改善目標について

#### (特長)

- ・事業活動収支計算書関係比率の中で特に、学生生徒等納付金比率が私学事業団大学法人平均を大きく上回っている。このことは私立学校としての本分である授業料等の収入が主体で運営されている、いわば財政的に健全体質である証ともいえる。
- ・12種類の財務比率の中で、8つの比率で私学事業団大学法人平均より優位な数値となっている。

#### (課題)

- ・教育研究経費比率については、30%台を継続し、前年度(34.3%)より増加したものの、前年度に引き続き平均値までは到達していない。
- ・学生生徒等納付金比率が高いことの裏返しで、それ以外の収入の比率が低いといえる。学生生徒等納付金以外の事業活動収入項目を模索する必要がある。

#### (改善目標)

- ・人件費比率は47.9%となり、昨年度(49.6%)とほぼ同率で私学事業団大学法人平均を上回っている。人件費構造の見直しについては今後も検討課題であるため、引き続き抜本的改革の実施を検討する。
- ・教育研究経費比率を向上させ、教育研究に寄与する財政構造となることを目指す。
- ・学生生徒等納付金以外の収入を増やし、より充実した財政基盤の確立を図る。

## 7. 監事による監査報告書

### 監事監査報告書

2025年5月23日

学校法人 明治学院

理事会 御中

評議員会 御中

私たち学校法人明治学院監事 真崎 修、榎本 誠は、私立学校法および寄附行為に基づき、2024年4月1日から2025年3月31日までの本法人の業務および財産の状況ならびに理事の業務執行の状況を監査しました。その方法および結果について以下のとおり報告します。

#### 1. 監査の方法

監事は全ての常務理事会、理事会、評議員会に出席し意見を述べたほか、理事長、学院長、学長、高校長、中学・東村山高校長、総務理事、財務理事など業務執行理事から業務の報告を聴取するとともに、重要部局の責任者にヒアリングを行いました。それらを通じて学院の現況および将来の展望(事業計画、中期計画等)、教学全般の状況(入試、学生、研究支援)、明治学院教育ビジョン、本法人の法務関連の対応状況、ならびに財務の状況について把握するように努めました。

監査の実施にあたっては、会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人から報告および重要事項についての説明を受けて意見の交換を行いました。さらに、財産目録、計算書類のほか重要な書類、資料の提出を受けてこれを閲覧し、監査しました。

また内部統制システム整備の基本方針についてその内容を確認しました。

#### 2. 監査の結果

監査の結果、建学の精神に立って良心的な教育を実践するために適切な運営が行われていると認めます。また本法人の業務に関する決定および執行は適切な手続きを経て行われており、業務および財産ならびに理事の業務執行に関する不正行為および法令や寄附行為に違反する明白かつ重大な事実、認められませんでした。

#### 3. その他の所見

- (1) 内部統制システムが適切に機能するよう今後とも見守る必要があると思われます。
- (2) 本法人の金融資産については、有価証券の市場性や金融システム全体に波及するリスクについて留意が必要と思われます。
- (3) 改正私立学校法および新寄附行為に則って、改正された内容に留意しつつ、適正な法人運営がなされることを期待します。

学校法人明治学院

監事 真崎 修 (印)

監事 榎本 誠 (印)

明治学院広報（別冊）  
編集 法人事務室（内線5167）  
発行責任者 理事長 山崎 雅男



「明治学院広報」は地球環境保護のために、大豆油インキを使用しております。

